

大和名所圖會

漆下郡 平群郡
廣瀨郡 葛下郡
忍海郡 下伊勢郡
三

ル 4
5326
3



大和名所圖會卷之三



廣瀨郡



伊勢守 岡 新共衛

西大寺

豐心丹

超昇寺

神功皇后陵

秋篠寺

秋篠邑

外之里

成務天皇陵

彌德天皇陵

元明天皇陵

弘法井

菅原社

垂仁天皇陵

安康天皇陵

菅原伏見

菅原寺

伏見岡

新田部親王祠

菅原池

興福尼院

赤膚山

唐招提寺

金堂

五層塔

醍醐味泉

倉海波池

藥師寺

金堂

講堂

佛足石

西京八幡宮

西系

郡山城

植柳八幡宮

羅城門

藥園宮

大織冠丘

美濃天皇陵

大塚

大井

筒井

筒井城址

東明寺

了了 51(7)

因可乃沈
西園堂
御相殿
正覺寺
信南備
龍田
立聖
廣順宮

富小川
手水屋
東院
三寶院
龍田新宮
額安寺
龍田川
龍田
三室岸
百濟宮
仲修井

法隆寺
三經院
禮殿
常樂寺
竹原井
龜瀨
占手
神岳社
信貴古城
大味川
小倉岩
列瓦沈
大福寺

講堂
沈水香圖
繪殿
中宮寺
如法經堂
芦塘宮
清水墓
磐瀨社
坂津田沈
猪上社
厨屋社
紅葉川
龍田社
櫻嶺
百濟川

金剛寺
王龍寺
登彌社
星麥泉
松部越
押熊祠
阿弥陀井
小倉岩
鳴川光寺
橋本社
茶所井
法起寺
三井

西松尾寺
長久寺
寶山寺
巖船祠
清瀧越
秋篠川
福貴寺
教弘寺
生駒谷
安明寺
椿井
駒墳
調子丸家沈

赤禱墓
靈仙寺
龍王岩
岩船越
御搦社
思取
往馬社
巖上社
金勝寺
千塚
法輪寺
北岡墓

勝向田沈
迹見沈
北河越
八幡祠
山口社
竹林寺
棕嶺越
平群社
雙墓
瓦塚
舟塚
斑鳩里

長林寺
 澤田川
 二上岡墓
 斤岡社
 放光廢寺
 行岡野
 顯宗子皇陵
 龍峯寺
 萬歲山
 威奈墓
 奥院
 正行寺
 長尾社
 櫛王比賣社
 廣瀨社
 葦田系日池
 久度社 久土寺 日里
 氷室址
 朝原
 大幡社
 福應寺
 二上山墓
 二上山
 深野寺 櫻殿井
 多々蟲王社
 金村社
 的場橋
 牧野墓
 日見橋
 孝靈天皇陵
 二上廢寺
 小松社
 志邨養社
 大羽雷社
 葛本上社 二座
 當麻寺
 高野寺
 浮孔宮
 宇佐社
 影現寺
 廣瀨川
 成相墓
 船戶渡口
 建磨寺
 斤岡山
 武烈天皇陵
 大坂山口社
 當麻山口社
 腰折田
 新曼陀羅 講堂
 法華堂 紫雲庵
 横佩墓
 調田社
 遊園

笛吹山
 爲志社
 笛吹沈
 栗栖小孫
 火雷社
 清水
 葛城川
 角刺宮址
 朱櫻
 笛吹社
 遊園

下伊勢新



今
あまのやうに柳かよる

あまのやうにいとよりの
玉とぬけは
白あか

まの柳の

修心編

西大寺

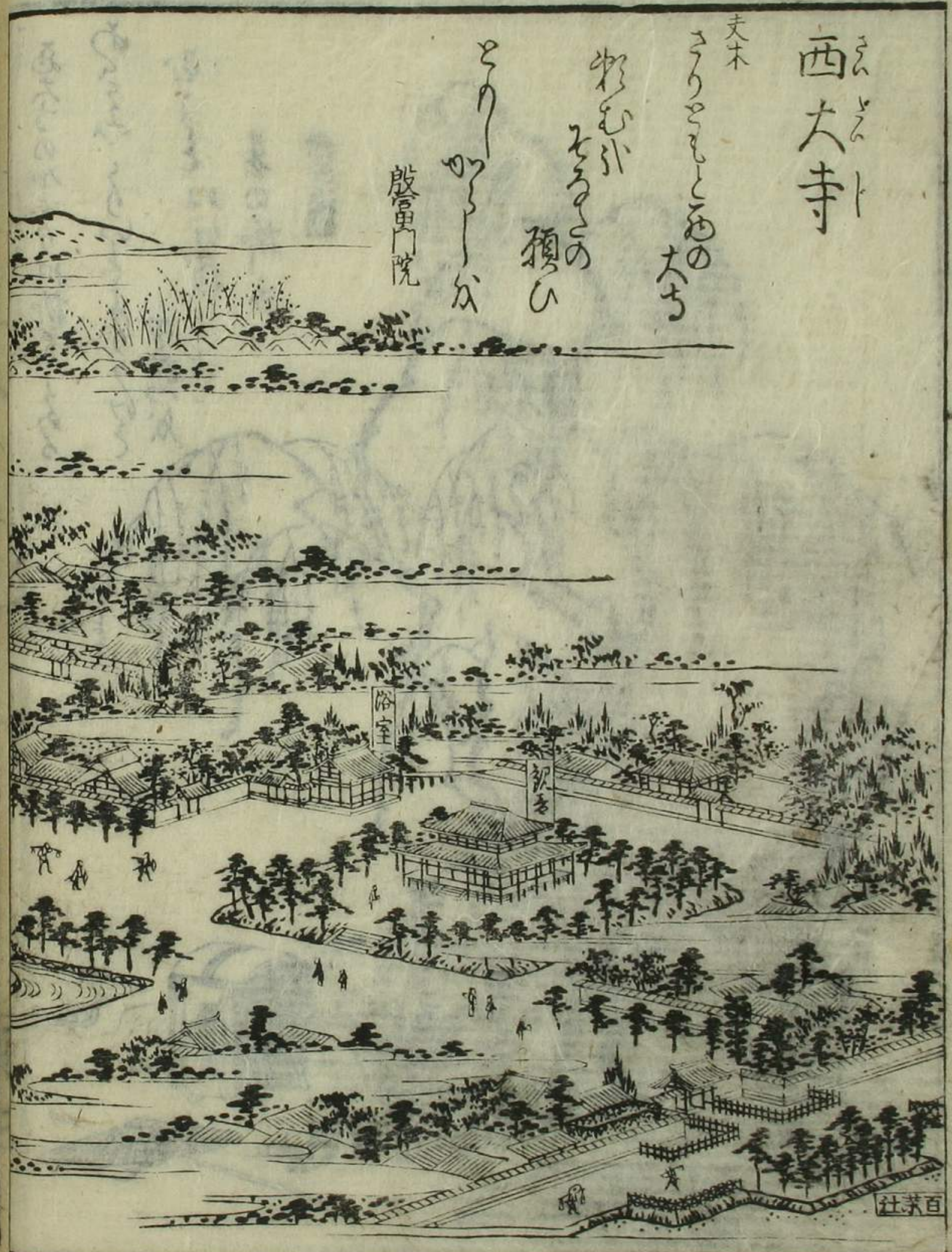
上野北町拾四番地
伊勢
新兵衛

カ
根廻り八十六
小て崩と付



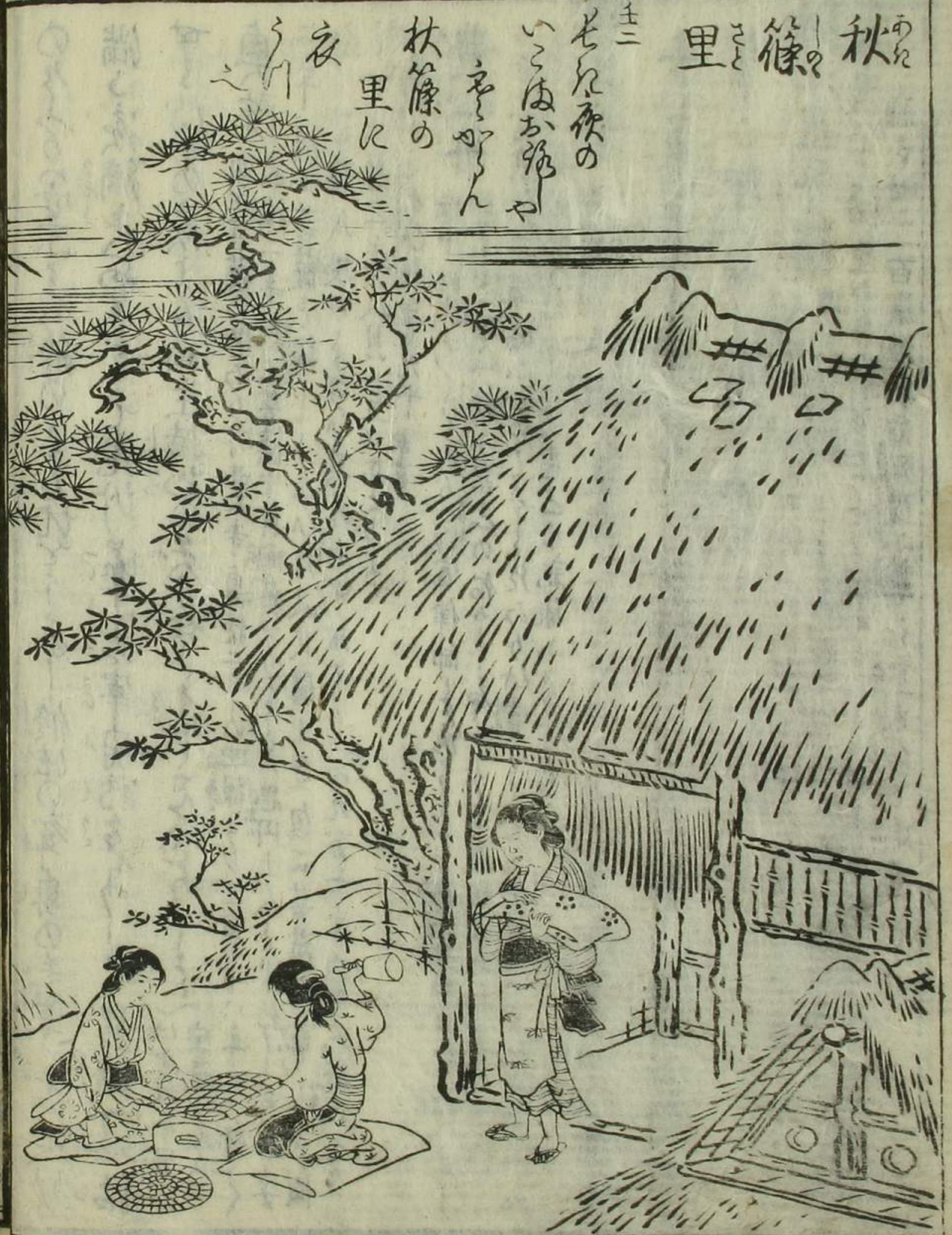
西大寺

夫木
ころりもしと池の
大ち
物むか
そろこの
頼い
その
か
殷富門院





秋篠や
 衣冠さへるん
 村一と
 九兆



秋の篠里
 衣冠の
 衣冠さへるん
 村一と

秋篠寺

秋篠村

大和志社記曰本尊茶師如來ひきの化十二神將々

春日の化光仁帝の所建立おん物系がらん伽藍造立の功いさをこ述たせめりとく

帝崩所ありしゆ桓武帝追々ごう造宮ありてく供養ありておのとりひける

之の間には若珠の傍に正は僧正の唯識の多ぶの心の境をこふく因明論の心を

てを眼小倦の中をあらはじ延暦十六年四月入寂しぬ年七十

香水寺内小あり上小洞小なるむひく城國小栗栖の常曉阿園梨と名

あらはじりとり花林をたれ元照小大元師の靈像秘方をけつたり降朝

の後小栗栖の法林寺の法をけつたり一夜の

やくく如來小ことり曉の阿伽の造びひひに井のうらふ大元明王

の形像うらみく常曉の社にりてあらはじりとり後七日乃

所修法に常曉阿園梨と名をしめりとり香水記それ所修法に

監錫の兼和元年弘法大師宮中小真言院を建て勅修小はりせ

毎正月一七日乃とりくとかつく鎮護國家五穀豐饒のとりと

すはし後七日の所修法是之

續日本後記

其後大元秘法を修せんと常曉

阿園梨兼和七年小奏園を述られに則勅修あり

續日本

正月後

七日の所修法に恒例とす今小絶と紫宸殿をたりとり

續日本

平家持活小曰後七日の所修法と大元の法之

は時諸民のおもたりく群をたりとり平家持活小曰後七日の所修法と大元の法之

續日本

とりとり

八大龍王社はち一冊余乾のとり雨あひの時にけし所にく

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

續日本

秋篠里類字を名所集へ平群郡とあり

陵圖考曰
 聖仁天皇陵
 字 宝来山
 字 宝来山

宝来山



乃谷



乃谷

成務天皇陵

山陵村あり陵圖考曰高サ三十二間根廻二百七十六間大和巡按記曰石塚
石塚ありありとく石塚ありありとく 石塚ありありとく 石塚ありありとく
ありありとく ありありとく ありありとく ありありとく ありありとく ありありとく ありありとく
ありありとく ありありとく ありありとく ありありとく ありありとく ありありとく ありありとく

高野陵

橘徳天皇の陵之成勢陵のむ小あり字高野山
陵圖考曰高サ三十八間根廻百二間

楊梅陵

高サ十二間根廻百八十一間
紹昇村あり霊泉あり

弘法井

井堀湧溢と

菅原神社

菅原村あり神名帳下郡菅原神社と云

菅原伏見二基陵

延喜式小見入之東の陸西の陵といつと云
菅原村あり見宿末孫士師宿孫古人士師宿孫道長

菅原伏見

菅原村あり見宿末孫士師宿孫古人士師宿孫道長

菅原や伏見の里れ荒しつゝもね 懐人あは

菅原や伏見の里れ荒しつゝもね 懐人あは

何となく物ぞ好しぬ菅原や伏見の里れ秋の夕々也 源俊頼

夜しのよし枕ふ菅原やゆみの美なうく夜給しは 兼円

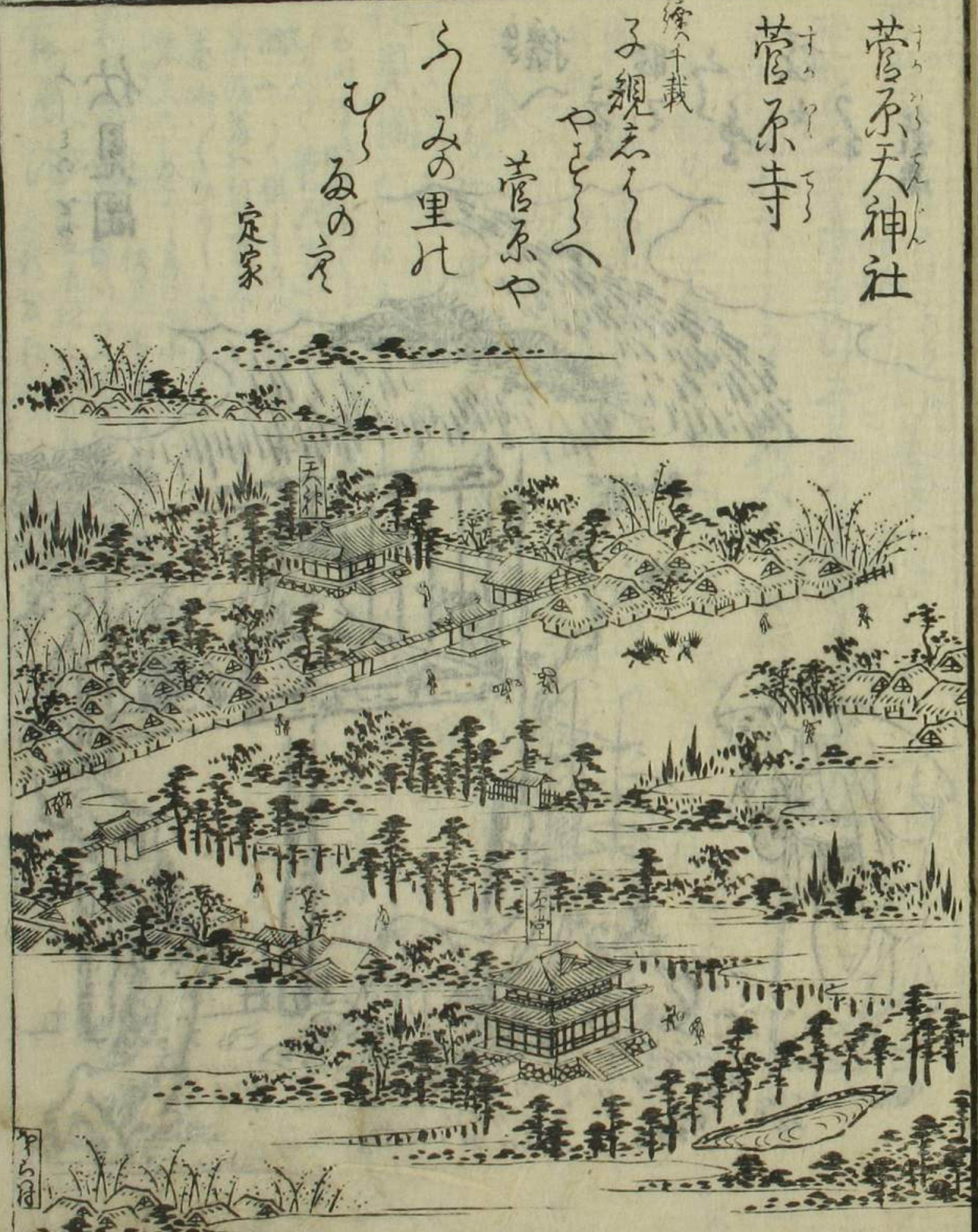
菅原天神社

菅原寺

菅原や
 やと〜へ
續千載

ふみの里れ

ひのえ
定家



伏見岡



菅原寺

菅原村小あり 菅原寺一名喜光寺 仍基菩薩の建立へ本尊八尺座像の阿弥

陀如来之聖武帝りあり 陀如来先放ちあり 小ありて在光寺

の勅號あり ともを侍人なる支行基菩薩の志氏ありて和泉國

大牟郡の人 天平十七年大僧正任官初基 昇元年正月大菩薩

號勅撰 同二年二月百廿五の東南院伊勢の藤原の勅撰 入寂年八十二 杖出

左の月久伊勢の藤原の勅撰 あり 小あり 光あり 此大僧正の基

後撰 初の宿あり我そ今をたとのふまひ七仏とをさる也 全

伏見岡

ひうし岡ふまをあり 起もあぐらおもいこに時枕を

ひうし 菅原村小あり 時をたてた大平八年仍基菩薩伊勢の藤原の勅撰

調へ 供あり 二修敷いこえ人々著なり 柏板あり 異なり あり

其後 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

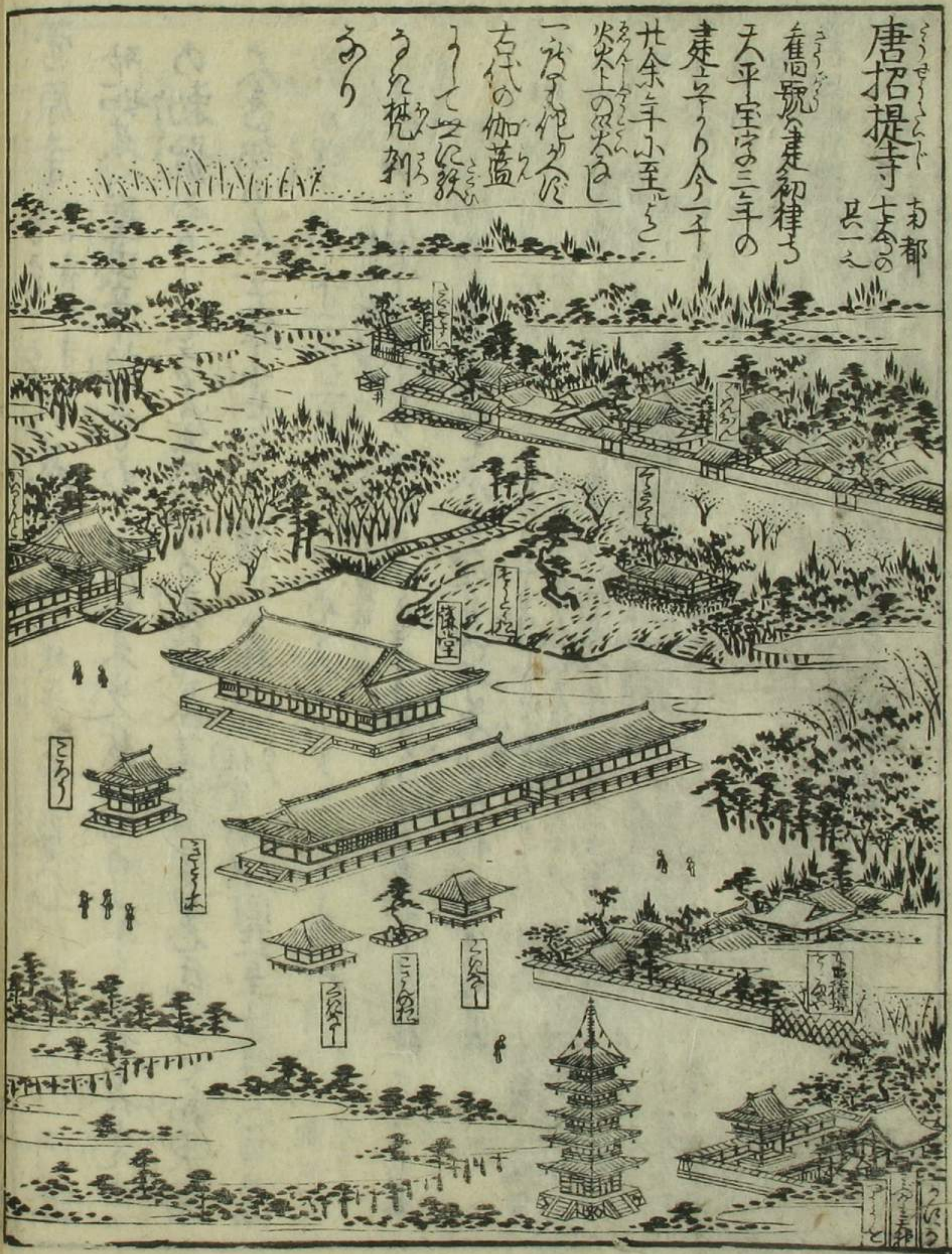
東大寺あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

新田部親王

伏見岡東陵のふあり 塚のうへ小祠あり 里へこれあり

菅原池

菅原村小あり 日本紀曰推古天皇十五年



唐招提寺 京都
 舊號建初律寺
 天平宝字三年の
 建より今千
 廿余年小至と
 炎上の災は
 一たす他は
 古代の伽藍
 うては
 うれた
 あり

興福院伏見園の南 圓純法師の住持 新二名弘文院と号し中尊阿弥

陀如来を春日の住み 脇土小親を野宮安長といふ事久しく顔瘻

及び一宮入五年の秋靈地を賜り再興ありしと大和社

赤膚山五條村小あり赤土の元あり 社名

夜ふくありありはあつたれ山に一つしかさうしもの公

唐招提寺蓬萊村の南あり樓心唐招提寺と額 用基鑑真大僧正 真言兼学

聖武帝の御預めしと創ありし聖場此地は新田部親王の旧宅と云

金堂海士の如室山末知 文六の釈迦佛を安置に其堂中千佛をこごみ

天人の講堂平城の朝集殿なり 造営あり 弥勒菩薩脇土の二菩薩

食堂藤の仲公の家なり 經藏珠玉の義持建を 佛舍利經論

國家鎮護のたもと大藏經に千五層塔日本紀曰大同五年散位江沼

胃索堂藤の清の家の造り 不空胃索の像廿八

御影堂海士の思花造り 西方院阿弥陀堂中興用山大悲菩薩

鑑真の遺像と云ふなり

孤山大和志曰寺前 滄海波池大和志曰今ある 醍醐味泉ち内小

彌勒講式曰 孤山松向徐禮百毫之秋月滄海波上遙引紫臺之曉雲

佛舍利三千粒仏法修通記曰はち光一の什宝之用基鑑真末朝の時海

花本船舳なり 鐵魚くみぬ 櫓船なごん 金鳥

不し 龍神の佛舍利をふそそあし

真言の秘傳 龍宮城のり 龍王の号にけし

龍池と名づけ社を建 舍利の護神 輪蓋龍王と号にけし

日海の午の時小舎利の供養 帝の代天寶二年

開山鑑真和尚唐の揚州龍興寺の智識 夜朝を帝の代天寶二年

吹つ 東大寺に至り 佛舍利二千粒 阿育王塔様銅支提止觀文義文句

菩提子 聖武天皇小 佛正小 大傍正の後

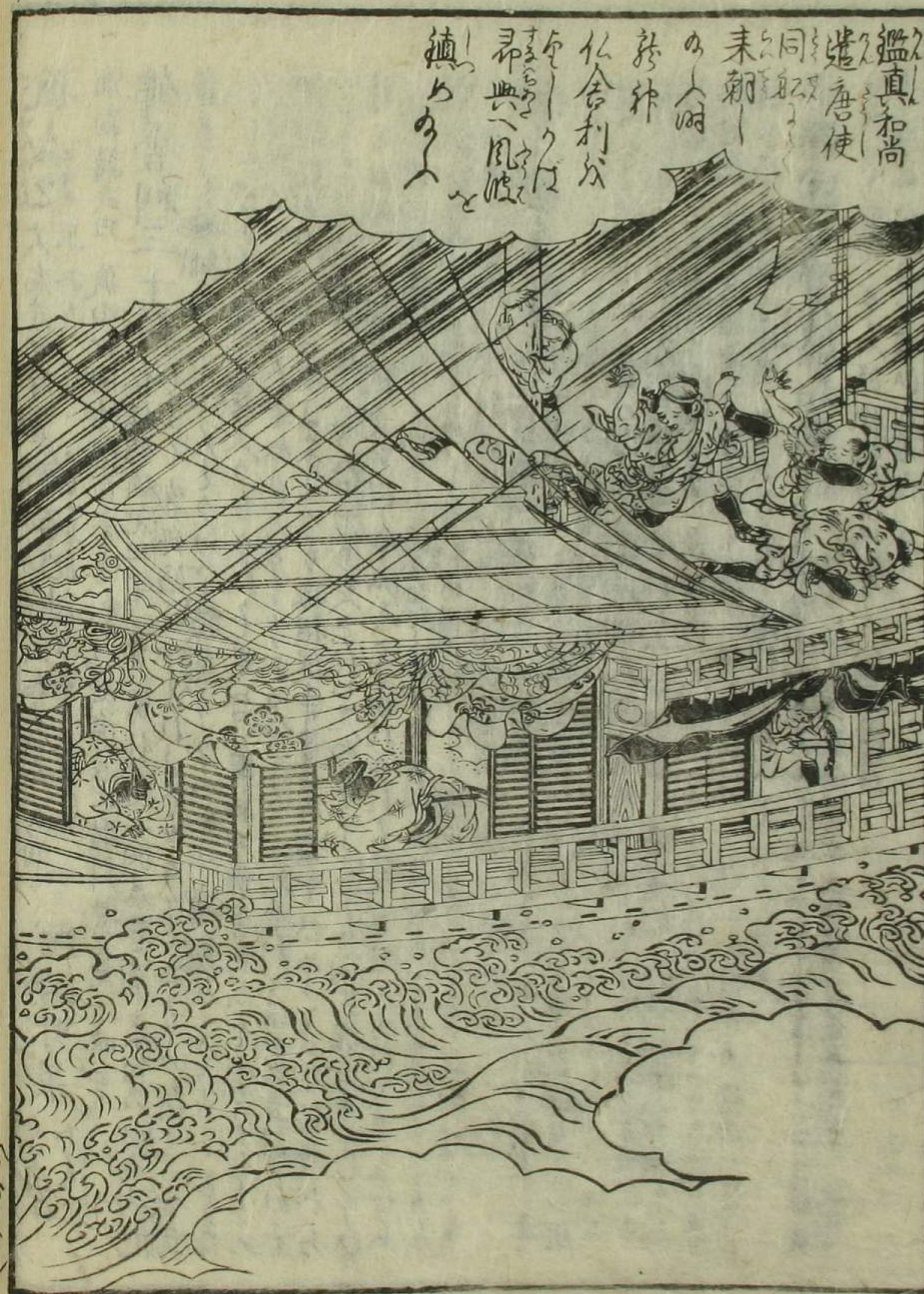
中興開山覺盛和尚又名窮情上人 四條院仁治年中小 宮中の 菩薩戒

十九日入寂の 後修持院の 大聖菩薩

と後の位なり



鑑真和尚
遣唐使
同船
未朝
の人の
終仲
仏舎利
の
尋典一風波
鎮の
の
人



藥師寺あり 天武帝白鳳九年皇后御疾を治せられたる天皇

茶師如來の作り堂塔を建んと御願ありて百倍の供養を給ひしを

忽小平金をりてせり日本紀 其頃伽藍の形容を知らずし沙門祚蓮

入定して龍宮の伽藍のとくを書りて奉向に經る帝感ありて

造営の勅定あり新書 其後持統天皇十一年茶師の肉眼あり日本紀 文武

天皇二年小茶師寺成就續日本紀 けしけし天和國高市郡岡本

建り元正帝親老二年高市郡より添下郡右系の六條

二坊ふりて

金堂 本尊茶師如來十二教及神觀世音二軀へ孝徳帝の御願一軀を

二月一日より七日講堂ひびき 堂ありて造花舎ありて二年小始る年毎

法舎ありて西院金堂 大北殿小破壞

東院 本尊觀世音を孝徳帝の御造立六層塔天平二年の建立

文殊堂のり

佛足跡石碑圖

恭 義阿止都久留伊乃比翼伎
佛 跡 波阿米爾伊多利都知佐閉由須
與 波比止乃麻佐米亦義那半
已乃義阿止夜与呂豆比賀
伊可奈留夜比止尔伊麻世
麻須良乎乃須義佐岐
首 麻須良乎乃布義於祁 死 於保義阿止乎義尔久留比



碑の高六尺餘廣一尺五寸餘厚二寸兩傍
一寸五分計石面小倭歌廿一首分て二段と
上段十一行下段十行上段才二首の上と恭
佛跡の二字あり才九首の上と二十七首の四
字あり下段才七首の上と呵噴生の二字あり
才九首の上と死字あり蓋十七首佛足跡の
讀むるの歌也四首へ呵噴生死は詠む歌あり
今とてに書むる文字は十七首の内十首計
の句は摘く其石碑の体相を圖とす

盤石高一尺八寸餘
平面縦二尺五寸
横三尺二寸五分

夫佛足石といへは寺に本尊茶師如來并造立の時百濟國より獻ゆ
大聖釋迦牟尼佛の足形彫る石は佛足形と基を以て之六の像
を鑄より一之茶師 豎石の碑に聖武帝の須佛足石を讚し之を詠
ふ所和ふといひしとも万葉假名ありて十七首の中第一の歌は拾遺集に
今も同小光明皇后山階寺なる佛跡に記しけり之を以て之を詠し
山階寺よりけりし移しぬる中來なるは 舊跡に山列と稱ふあり
拾遺 山階寺なるはたにけりけり
二十わたり二のどろくはくはひうけ人のふたはひを七是 光明皇后

佛足形ふは文々 千輻輪相 穀輻相 具足魚鱗相
彫りあり 金剛杵相 足跟亦梵王頂相 衆蟲相

釋迦牟尼佛跡圖
考西域傳云今摩揭陀國昔阿育王方精舍中有一大石有佛跡各長一尺八寸廣
六寸輪相花文帶相名異是佛欲涅槃北趣拘尸南望王城豆耶踏處近為金
耳國商迦王不信正法毀壞佛跡鑿已復本處今現圖寫所在流布觀佛三
昧經云若人見佛足跡思敬重无量衆罪由共亡滅今俱 非有華
所致乎又北印度度鳥仗國東北二百六十里入大山有龍泉河源春夏
含凍晨夕飛雪暴惡龍常雨水災如來往化令金剛神以杵擊山崖
則佈歸依於佛恐心起茲跡示之於泉南大石上現其跡隨心淺深量有長

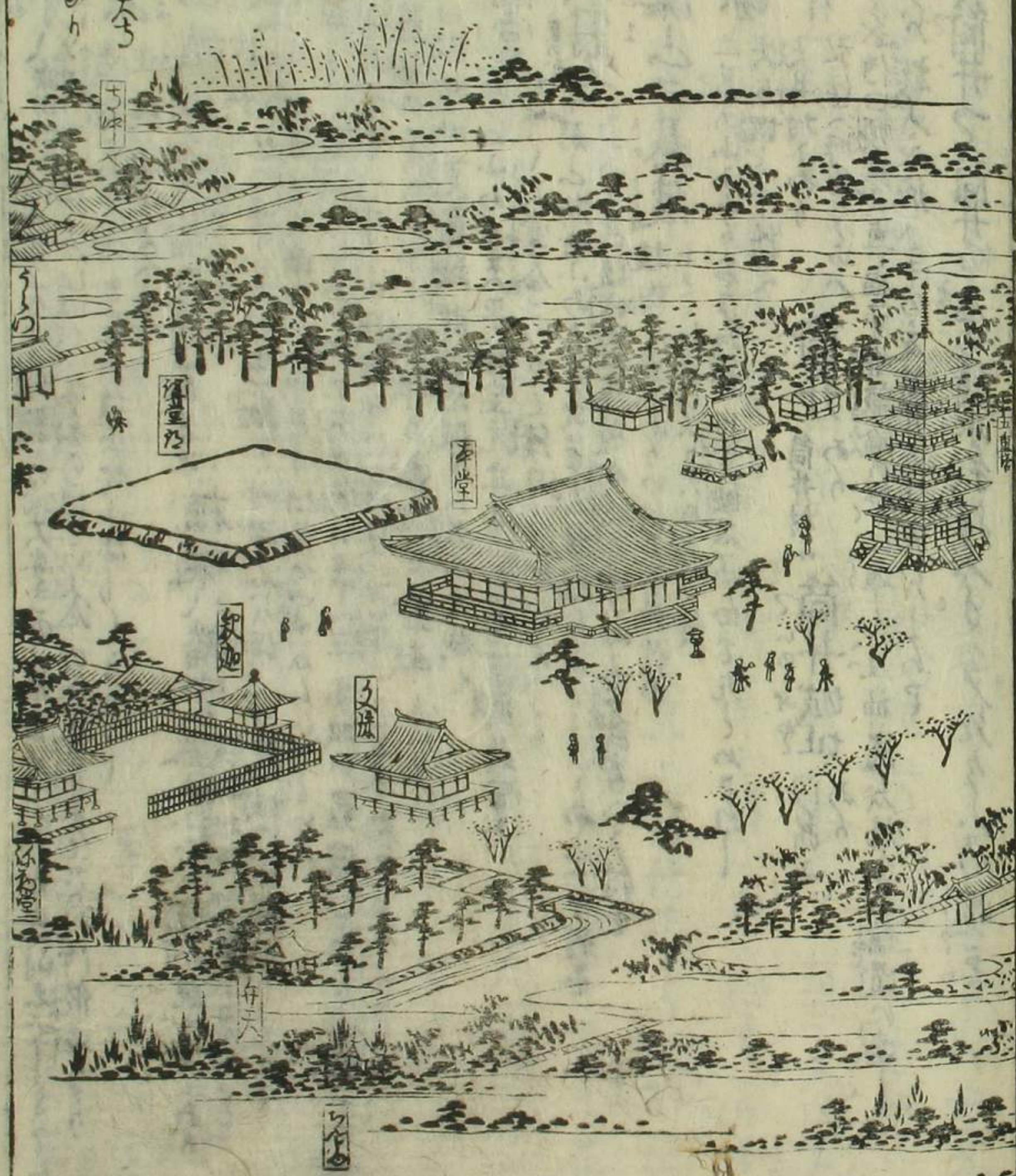
短今丘慈國城北四十里寺佛堂 中王石之上亦有佛跡齊 日放光道
俗至時同住 修觀佛三昧經佛在世時若有衆生見佛行者及見千輪
輪 相即除千劫極重惡罪佛去世後想佛行者亦除千劫極重惡罪雖
不想行見佛迹者見像行者少之 中亦除千劫極重惡罪觀如來足下平
滿不容一毛豆下千輪輪相穀輻具足魚鱗相次金剛杵相足跟亦有梵
王頂相衆蟲之相不異諸惡是為休祥
文室真人淨三

大唐使人王玄策向中天竺為 國中轉法輪 向見跡得轉寫搭是
第一木日本使人黃書本實向大唐國於普光寺得轉寫搭是第二本兵
本在右京四條坊禪院向禪院壇披見神跡敬轉寫搭是第三本從天
平勝寶元年歲次己丑七月十五日至廿七日并一十三箇日作了檀主
從三位智努王 天平勝寶四年歲次壬辰九月七日改書寫成文室
真人智努畫師越田安方書寫 扣 智 努

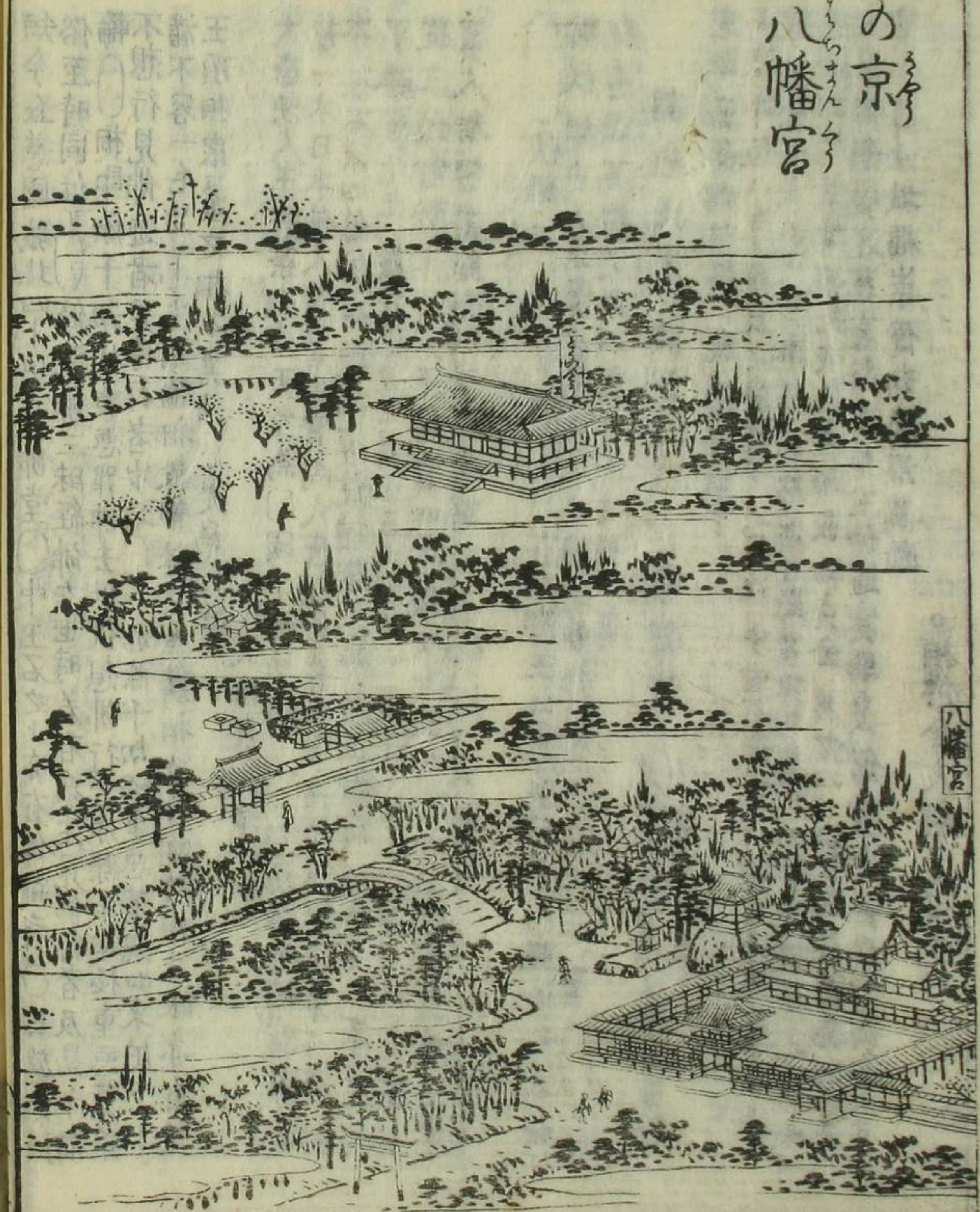
伏願為 亡夫人從四位下茨田郡王法名良式敬寫釋迦如來神
跡伏願夫人之靈魂高遊入无勝之妙邦受 之聖 水
脫有漏高證无為同霑三界共契一真
諸行无常 諸法无我 涅槃寂靜 文室真人淨三 天武帝白皇子
長親王の子あり
東塔露盤銅柱銘 維清原宮取宇
天皇即位八年庚辰之歲建子之月以 中宮不念創此伽藍而鋪金未遂
龍駕騰仙上天皇奉道前緒遂成斯業照先皇之私誓光後帝之玄功
道濟郡生業傳曠却式於高躅取勒貞金 其銘曰 魏山魏蕩蕩藥師如來
大發誓願廣運慈悲哀憐聖王仰延真助爰飭靈宇 莊嚴調御亭亭
寶刹窈窕法城福崇億劫慶溢萬齡
相傳舍人親王題書云

其都七寺
其一あり

茶師寺



西の京 八幡宮



鎮守八幡宮 貞徳元年修築和尙大安寺の八幡宮なり今も金剛寺と云ふに依り

西京 孝謙天皇御出家の後北ははりしと云ふ

郡山城 初に築くといふ

羅城門 平城宮の南門に造りし所の名なり

園日也 羅城といふ所の外曲輪の名なり平安城の羅城門に東寺の西小舎曰此

ありて大武帝八年小舎に造りしに羅城門と云ふと日本記に云ふなり

羅城門 通鑑曰不穆時克羅城註曰羅城といふ所の名なり

薬園宮 郡小あり天平勝宝元年十一月南薬園新宮小

大織冠丘 郡小柳町あり多武宗大織冠なる名なり

美濃二基陵 植木の南あり門はの所代の

大塚 二基の山あり古くは日聖徳太子白岩九と云ふ

天井 大井村あり 筒井 筒井村あり 筒井城址 口所あり

筒井家傳曰順慶は真福寺唯識論の學に通じ且神通なるを以て儒道に達し

和安の教へ水派入年の及筒井の信あり

筒井つ筒井の倉の清水新築なる多れなり乃曉云

鐙倉の東明寺 夫田村の舎人親王の建立あり本尊茶師如來なり

安並より黛紙銀泥の法義經あり舎人親王の志奉りたり

金剛寺 夫田村あり 俗小夫田と云ふ 秋本尊地藏菩薩大武天皇

の勅願あり知通傍正縁は傍正を秋明元年七月小座土にり

三藏小唯識なる多し序朝の後白鳳元年二月傍正より 秋地蔵

菩薩をびりけし小恒々満米上人といふあり其余年の早稲

送く地藏菩薩の信教し其頃小孫堂は上人と解極乃

らんとあり堂といふなり人小くを朝廷小ありなり 魂を

焰魔王宮しをあそびけるある時炎王がた宣くと云の世の成生

罪をしその罪かへつて我をかろりめをりなり 小焰王

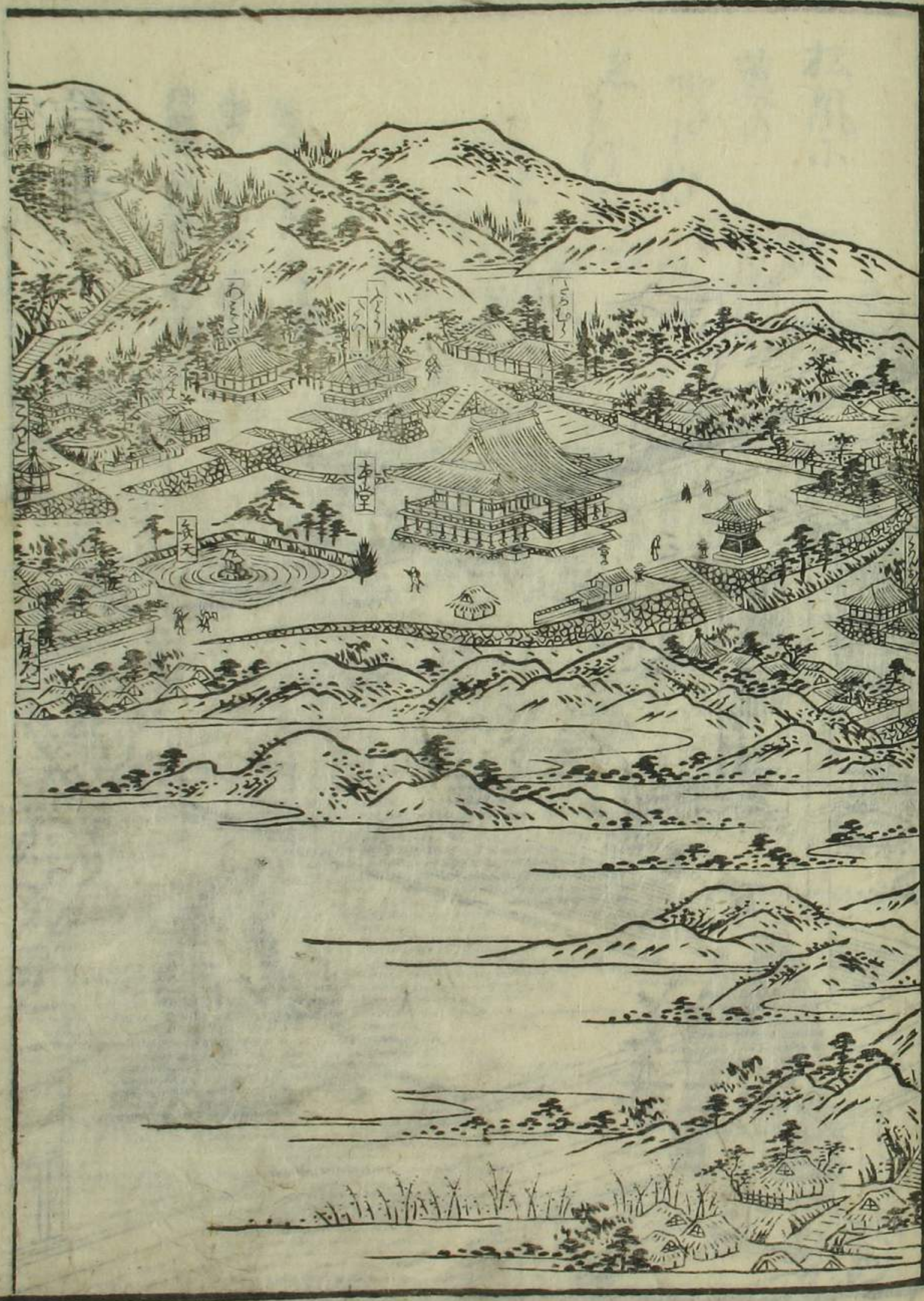
の居り菩薩戒なりけりせめ人小くを志りてと奏は炎王と云

と人小くは陰府小戒解ふといふせん堂をみく我解友なり

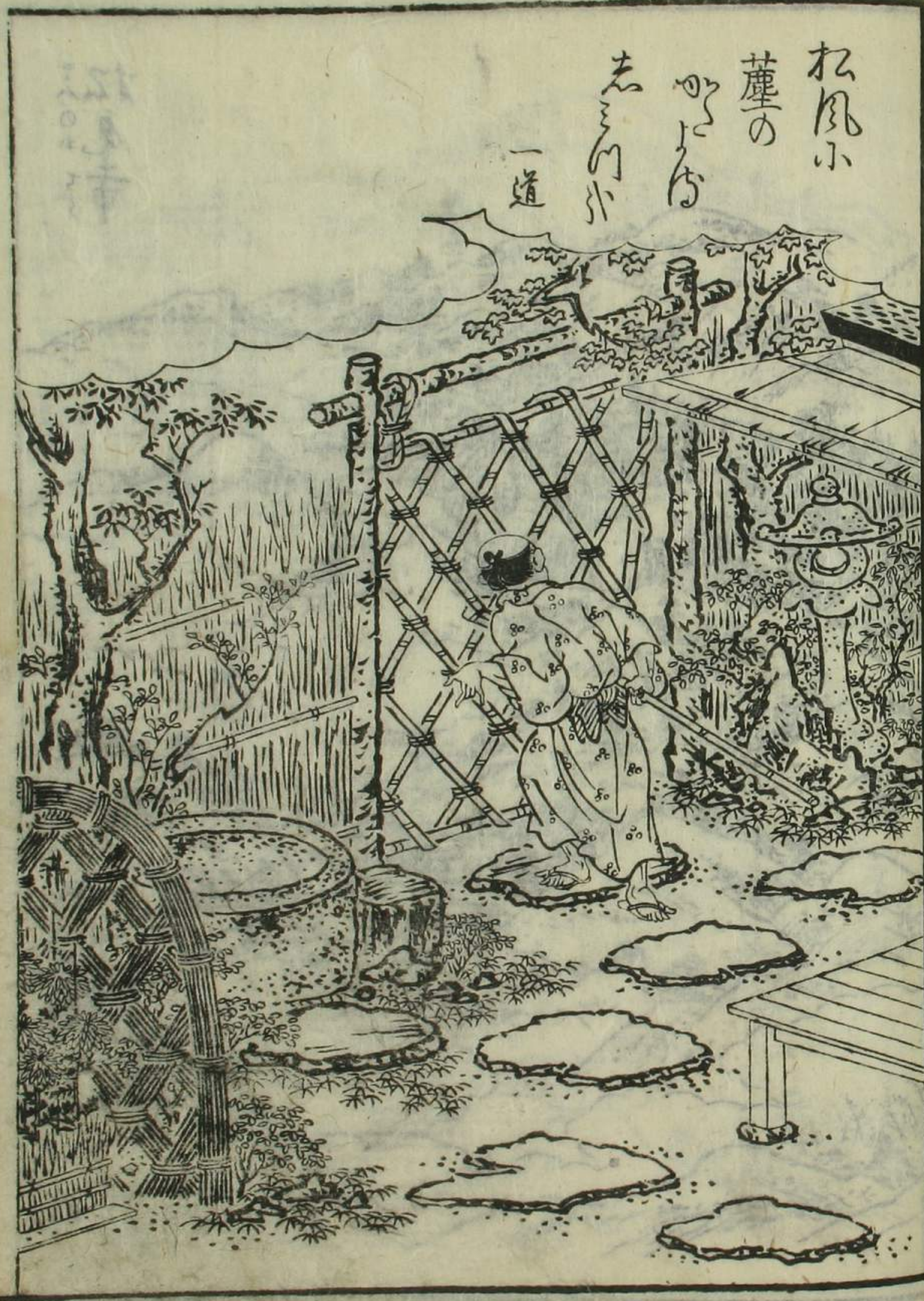
戒業絶淨の人ありと奏と火火王その師を呼ぶとん則堂の

上人のものと小りてまろくのりつるに上人あははると首と共の
即ち瑛官小りつる則上人が師子の座ふあはると火王の
あつらふていけ菩薩戒あつらふて後ふふ布施にはいさ上人
地獄の苦報あつらふて後ふふ布施にはいさ上人
忽ち阿鼻城にいつられたるに鐵門の風銅釜の焰が吹さひさ
よの劔の枝なつて鉢池の血の煙とて其外は苦の流せぬま
それ中法師ひとり焰小くさつてありたりいさ上人の
はとひさつていさ上人の苦をさつていさ上人の
苦ふつたりいさ上人の苦をさつていさ上人の
くんにたよりふいさ上人の苦をさつていさ上人の
又いさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の
うはしぬりの箱一つと上人ふまは板安樂ふつていさ上人の
いさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の

やとていさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の
朱くくく他いさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の
満慶の白米をいさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の
親者若祥天戸のいさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の
は米上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の
小野篁の家守の長男仁壽二年小卒とて破軍星の化す
いつり小野
補陀洛山西松尾寺夫田の大武帝の皇子舎人親王の所預へ本尊
十一面觀世音の親王の他大黒天の弘法大師の他は市守長者の
持佛といふ舎人親王の石塔の本堂の後ふあり鎮守の松尾大明神
これの酒神ありいさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の
赤檮墓赤檮墓
勝回田勝回田
顯仲良王集古衣枕袖中抄考いさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の
いさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の苦をさつていさ上人の



やとのちち
矢田地蔵
こんがうせん
金剛山寺



松風小
 蘆の
 心は
 志の
 小
 一
 道



筒井
 筒井順慶つの小
 愛して茶湯の
 月ひの道の小



松尾寺

海瀧山王龍寺二村小 伽藍開基記曰和列添下郡の西小あり海瀧と
いふ林壑幽邃めく松檜蔚然と岩崖奇秀ふして中小巨石あり
高廿一丈五尺計うて十二面觀なる鑄成一梵容麗くくくく
との尊教ふは左不動明王の像は刻むたふ建武丙子三年二月
十二日大願主僧千貫行人僧千歳と識と上小一字の堂ありと云ふ
霧ふの堂の傍小伊努石清水春日の祠あり堂の後小弁財天あり
けし守護の伽藍神へ村民無知くく山林の本石を侵ととの其家
かろくは禍に罹る過か悔んく侵と祈のたふ還と時を則己とら
ふ小瀑布泉ありとれふのく名く下里各
真弓山長久寺上村小 大和寺社記曰聖武帝の御建立いふく七堂伽藍
の靈比るれく類廢くく本堂一字本尊十一面觀名塔一基大日
如來安坐を以側に法守八王子社あり境内方二町余坊舎八宇
ま言ふ

鼻高山靈化寺伏見園の 仍基菩薩の南基之鼻高山埋くくく
山號とせり又南大竺の婆羅門と仍基とくくめく遍のく對靈く
釈迦の御まにちたりて一の和ありと號とせり本寺の茶師如來
脇士十二神將とり小仍基の化くく二層塔あり法守十六所権現
ありり基の位あり室の本堂のあけ方ゆく今小持佛堂法あり

速見池沈田村小あり日本紀曰無仁天皇三十五年
登彌神社本寺村小あり近隣六村の氏神
寶山寺生野小あり般若窟の役小角修仍の靈窟之中興寶山和尚本堂
の中尊不動明王左右の矜迦羅逝多迦地藏觀多寶く
歡喜天祠本堂の後 常念觀名堂本堂神の 堂上閣本寺の
彌勒佛岩腰小あり 辨才天社舊よりけの 役行者堂仍者の洞
十三級石塔婆岩頂の上小あり竹小佛舎
それ寶山和尚姓く田氏智別安懷那一色村の人延宝六年十月

十日始く當ら船若窟小入一笠一衣袂は隨身一樹下小安坐はあり
夕暮小黒色の大夜及来現一寶ふか捉く曰汝何ゆ人我ふよ来何
とらや寶ふの眼忽小瞶て氣絶せんは時小不初か念くく名號
と唱へ力十倍してかひい何者そと同一夜及神若くく逃去は
其後岩船の神小始して磐石純の夜及の肌層小知り是小依く
の神の来試と知り一日藁の里人來く當ら鎮ち弁財天乃像
近世下の俗家に安坐は寶ふ則るはあ授く改く祠は建延寶
八年四月朔日より五日断念一八万枚の護摩は終一本多不初明王は
彫刻を自弥勒の像は終て岩窟に安坐は其外を上閣は虚空藏は
安坐は觀音院は觀音は居り星霜二十年に至るくく一
大伽藍とある初大聖無動寺と号し後改く寶ふ寺とくく中古無
比のり者へ正徳六年正月十六日入寂 年八十八 本堂の額弘法大師乃
求得く寶ふ寺と改じとせん 寶ふ寺と銘を奉にこれん
和漢三才圖會小入く

星森泉 大和志曰由系村小あり後か常小澤とくく早に淵を森雨小瀧は
内國大の川はあり主人曰くは地は日生る因く名は
巖船神祠 南田系村 舊事記曰饒速日尊大神御祖の詔は裏く大
般船小棄て大津は内國河上考家に坐は河内志曰河上考峯を護
良郡田系村小あり今石船と號は峡中に石あり長五丈計は溪あり
石下は通く和別津田系石船明神の神樂は遷考は因く石船考
は今其禮式廢はくくも毎歲二月晦日村民お集り禊事は終と
い神坐は石交野郡に属は 諸別めは 貝系 之石舟より入ては谷中
七八町にわ谷の内頗廣一其中に大川なる其里は田系といは川の
東は東田系といは大和國は西田系といは内國より云
龍王峯 雨は濛濛不其驗あり 黒溝池 えり村
北の越 靜田村より國境を越は西 私部越 村は易私部清籠越は別は静田村
岩船越 は別私部村は幡祠 押熊祠 村は易私部清籠越は別は静田村
秋篠川 大橋川といは秋篠村に至るくく北に至る

靈巖寺

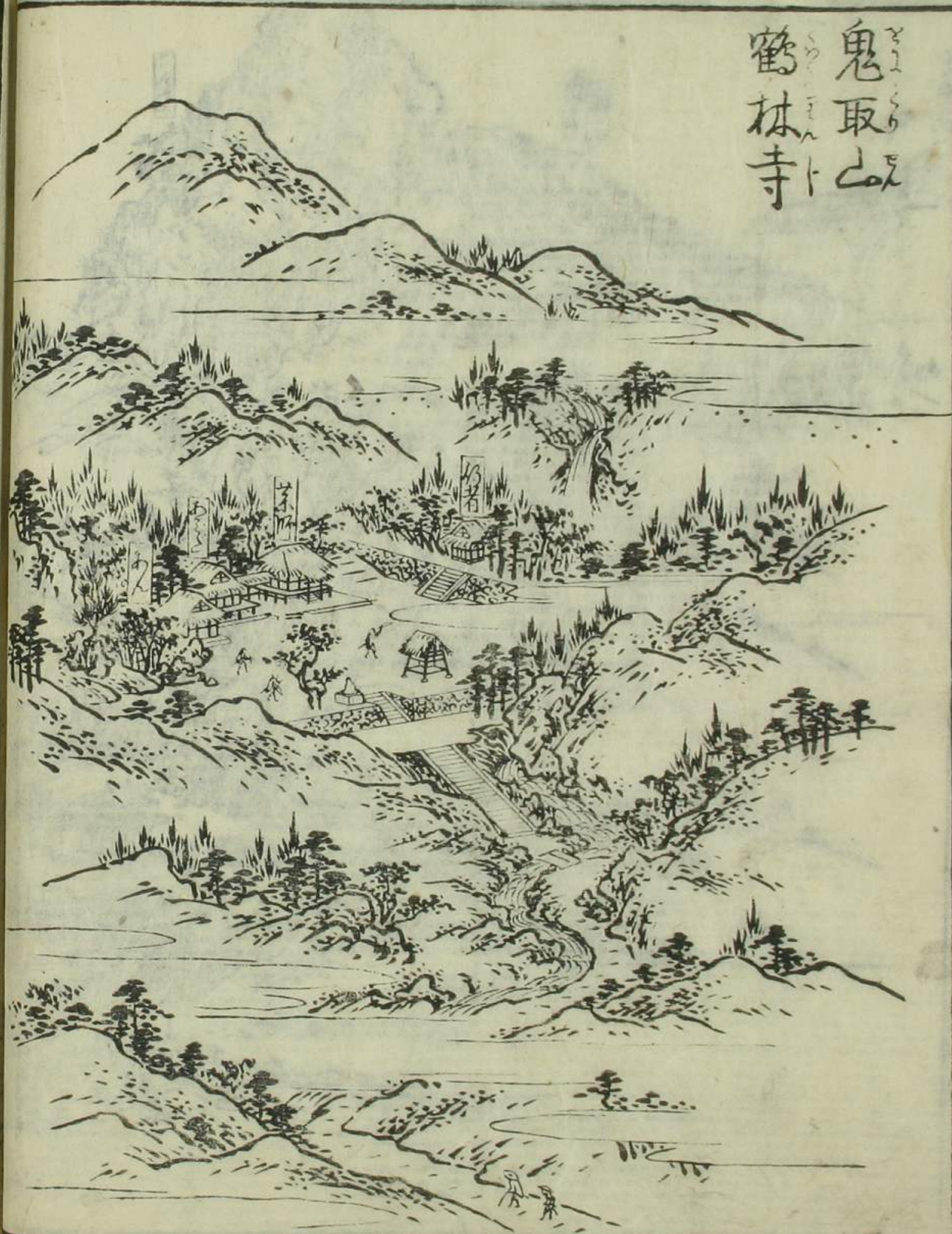




般若崖寶山寺

奥の山は
二十丁
あり

鬼取山
鶴林寺



御擲社

榎系村小あり
神名帳出

山口社

榎系村小あり
神名帳出

阿弥陀井

西向村
小あり

福貴寺

福貴村小あり
通詮法師求印持の法に修りし所之通詮(武列の)

鬼取山鶴林寺

平群郡生駒の麓
有里村小あり

般若堂屋といふ鬼取は役行者假字假賢の二鬼かゝりられし所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の所なりされを役行者の

王 生駒とありしは杖の色小吹く深の糸けるをせりた 定家
續後拾遺
ま風小作駒のしれ家とれくをてぬ雲や梅さるらん 法下定家
もまはさみふあわ〜〜〜とん〜〜〜といふるの〜小電さるり 鎌倉を合
手拾遺

採嶺裁 平群郡西畑村は新茶屋多し大坂街道へ東の端よく支那一家づい
大和國西畑村の内其餘は内國へは筋より北生駒とありて小倉とこれ
は畧し〜採嶺嶺といふ世に〜〜〜時といふ〜〜〜(まけ約い乃松敷のた
はす〜〜〜乃嶺よりたれむのく名つ〜〜〜い〜〜〜は説を非さるり長
郡との城の築き〜〜〜時〜〜〜は伐た〜〜〜り今し宮〜〜〜倉銀
峠とす採嶺嶺とするらん

泊船集 粟の香り〜〜〜登は節句の非
鳴川と千光寺 小あり役小角沖年二十七歳に至りま〜〜〜けふおわ〜
顯密のりは〜〜〜般若窟に日夜持念〜〜〜ふ巖間より光明
結々〜〜〜千の観世名出現〜〜〜のり者欽喜怡悦〜〜〜昂尊像
ふれ〜安重〜〜〜其後大衆ふ〜〜〜て彼〜〜〜の〜〜〜故り當
ふふ元宇と早七板の仍場大家小等〜〜〜あり

大徳寺正堂一宇傍舎といふ古鐘
あり勅曰元仁二年四月鑄

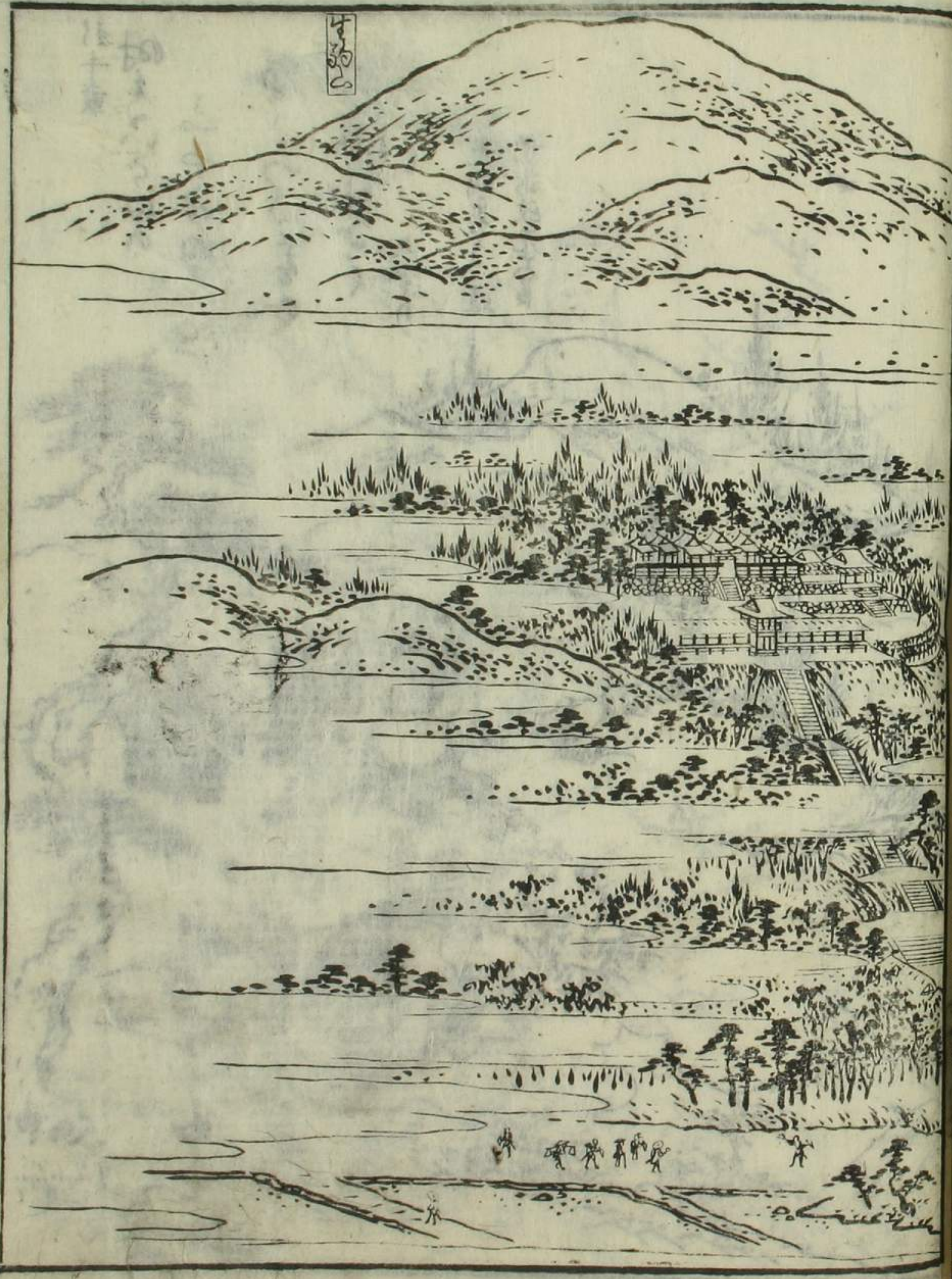
生駒谷 西畑 藤尾 萩系 小平尾 乙田 小瀬 一分 有里 大内 鬼取 小倉 寺
菜畑 山崎 辻 谷田 俵口 小川 以上十七村 生駒谷とす

水瀧石 生駒の石名 若菜畑村 一分村に多く出づ砂のく〜〜〜り石とるり〜
塗國〜〜〜あり生駒の 園 雑々拾遺に潮瀧石あり 壘石スランカステン 紅毛
春礫多し〜〜〜佳り 中用意乃〜〜〜の〜〜〜は〜〜〜あり〜
ゆり〜〜〜と本家に〜〜〜り海中〜〜〜の〜〜〜のみあ〜〜〜は〜
おれ〜〜〜ありた〜〜〜ゆに〜〜〜の〜〜〜は〜〜〜あり〜
兵書の中に志村が祝小日海上より四十石を盛に〜〜〜りてい〜
凌ぐん人けま〜〜〜と〜〜〜あり〜〜〜あり〜
は入〜海上流〜〜〜一石に〜〜〜あり〜
米俵は入〜〜〜あり〜
か〜〜〜あり〜

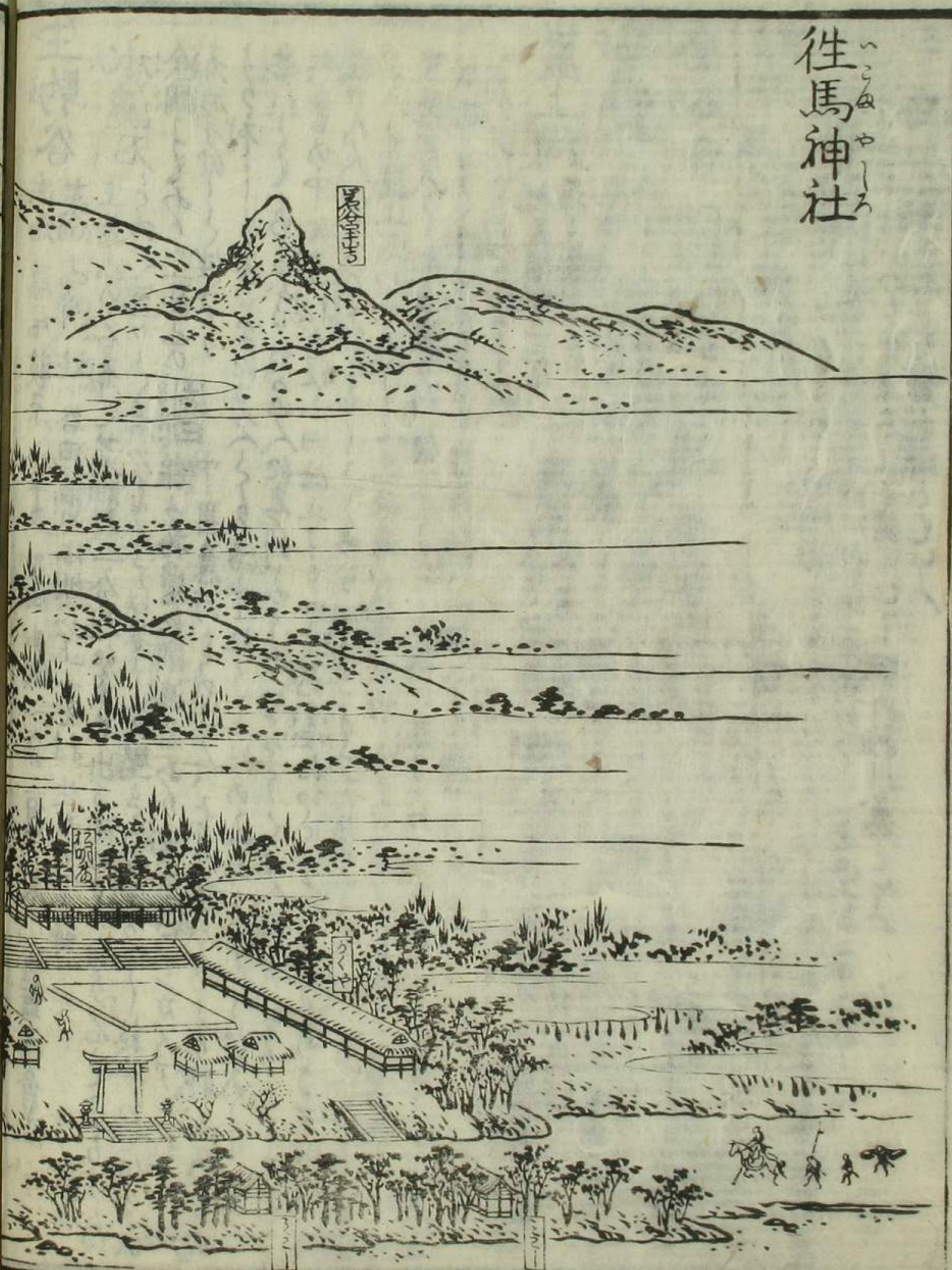
巖上祠 然本塚村小あり 平群祠 西宮村小あり 橋本社 梨本村小あり今野馬田明神
神名帳出 神名帳出 神名帳出 神名帳出

安明寺 安明寺村小あり俗小叶堂〜〜〜入聖徳太子の御影の所新獲〜
金勝寺 柳系村小あり堂の〜〜〜 雙星 梨本村小あり一古徳内親王
模井 模井村小あり千塚 瓦塚 二井村小あり聖徳太子校万物の所
法起寺 岡本村小あり延宝六年創 舒明帝十年〜〜〜一千余年〜
駒塚 二井村小あり聖徳太子の跡あり〜
今岡の系も粟毛岡〜〜〜

生駒谷 西畑 藤尾 萩系 小平尾 乙田 小瀬 一分 有里 大内 鬼取 小倉 寺
菜畑 山崎 辻 谷田 俵口 小川 以上十七村 生駒谷とす
水瀧石 生駒の石名 若菜畑村 一分村に多く出づ砂のく〜〜〜り石とるり〜
塗國〜〜〜あり生駒の 園 雑々拾遺に潮瀧石あり 壘石スランカステン 紅毛
春礫多し〜〜〜佳り 中用意乃〜〜〜の〜〜〜は〜〜〜あり〜
ゆり〜〜〜と本家に〜〜〜り海中〜〜〜の〜〜〜のみあ〜〜〜は〜
おれ〜〜〜ありた〜〜〜ゆに〜〜〜の〜〜〜は〜〜〜あり〜
兵書の中に志村が祝小日海上より四十石を盛に〜〜〜りてい〜
凌ぐん人けま〜〜〜と〜〜〜あり〜〜〜あり〜
は入〜海上流〜〜〜一石に〜〜〜あり〜
米俵は入〜〜〜あり〜
か〜〜〜あり〜



山



山

往馬神社



新千載
 時をいごぬの
 ちやらねん
 ちつるまの
 外小ふく
 ころり
 光明寺入道
 兼持政九大臣

法輪寺

法起ち西井村小あり推古帝年中大塔大兄王由義王等始くけしん

舟塚

舟塚の舟塚小あり西元紀元は八二の塔一基の遺蹟なり

調子丸家地

八日初百餘年より其の百餘國聖明王の御幸相一男あり

右子に属し鶴宮に住し日夜兼仕八十四歳より其の長子足人と號

北岡墓

法隆寺村小あり大満池法隆寺村

斑鳩里

法隆寺の東院の地之斑鳩群居せしり名あり推古帝

固可乃池

法隆寺の内小

夫は

いのかやらの池は氷ととも富小川を流すと人々に 乙朝

富小川

係下郡より流れ高安に至り大池川といふ目ふ

後拾遺

第代とせめる飛井の水や富小川のがらとせりらん 弁乳母

金系

君が代の富緒川の流をせぬ法のとせりらん 源忠孝

新千載

いづれが富緒川の流をせぬ法のとせりらん 権修良聖

拾玉

あるたとの富小川のがらとせりらん 永相國と経

鳴川と千光寺



鳴川
元上



石の山



法隆寺

平群郡 舊名斑鳩寺 法相宗 人皇三十二代用明天皇の皇子

聖徳太子龍田明神の宮（小室）斑鳩の地に伽藍を造る。一坊の

一名七徳寺といふ。金堂儼然として西に輪藏を造る。鳥路を

号し東に鐘樓あり北に講堂あり南に聖國寺といふ。乾に鎮す

の社頭を祠として寶藏を造る。南に法隆寺同様の山魏々として

金鼓の二口あり上堂奥院大湯を伽藍せしむ。松

凡宝鐸小者信を法の聲とす。南都七大夫の

金堂 大和社記曰金堂の四方面より釈迦の二尊 慈化多佛師の

他あり右々の佛師如來母向人皇后の所を造りて其の佛に持國天の神像を造る。大和國

大和國の孝謙帝の所願を東向の正觀を推古帝の所願を西向の阿彌陀三尊

光明皇后の所願を西向の虚空藏菩薩其脇に又阿彌陀佛あり若光の撰

く鎌倉の明太子條時頼の進よりといふ。靈寶録曰東北に隅り

佛像金銀多し。又西の隅り釋迦

誕生佛は毎月八日佛生會に出す。堂は堂は堂は。每正月七晝夜乃同最

勝王經天下泰平乃祈禱あり太子の封ト云ふ。香ありといふ。

牛王の押なり。

講堂 寛文記曰大講堂は本師の二尊 四大像 寶頭盧尊者 安坐

出の釈迦 阿彌陀 如意輪觀音 不動 某師 釈迦誕生佛 五大尊 達磨

十一面觀音 八歳龍女 舍利 伽羅多山地藏 愛染 其外畫像あり

五重塔 大和社記曰その塔の四方正面に本面 阿彌陀の二尊 東西に

佛師土の如く造りて像を 玉林抄曰塔婆の付寺と号す

口お日守屋の首の櫃に入て法隆寺建立の時廻廊の西北に三向の柱乃

下に瘞じといふ 中門 乾

上堂 寛文記曰本尊の釈迦の二尊 丈六像 四天王 長七尺

大涅槃像 釈尊 八相成道の画像

西圓堂 寛文記曰八角宝形造りて本尊の某師如來十二神將の如く

世の人を預めたる方刀其外極の如く納て堂内にみたりは後

修所社あり 靈寶録曰圓堂の光明皇后の所母公橋太夫人の造る。

大經藏

靈寶錄曰經論聖教等々納之在本尊の鉢陀佛を日也

于水屋

天皇詠曰後後哉上皇臨幸の時于水新之

三經院

天皇詠曰本尊河鉢陀佛の基他文殊弥勒四大王

七種寶器

あり釈尊より勝鬘夫人に授けり之の衲袈裟梵網經

春秋飄

孔子自ら外題に沛の皮を揮ひて眞珍子神代皇物之賢聖飄

書軸

あり六目摘守屋大連が所遺治の時軍器より其外畫像

聖靈院

俗小太子堂といへ皇太子攝政東帶の遺像あり大兄王子

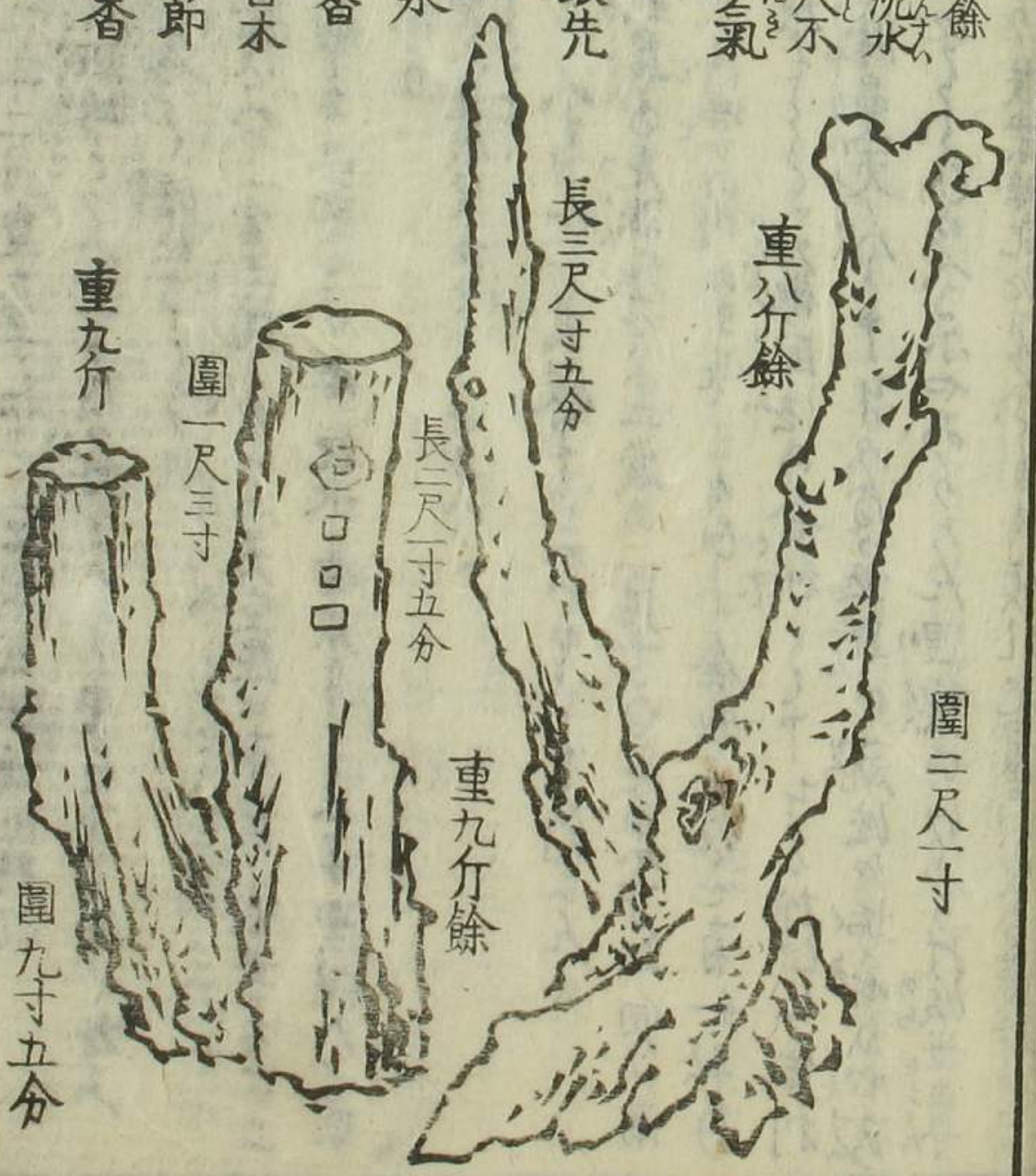
沈水香

推古天皇三年四月沈水漂著於淡路嶋其大一圍嶋人不

知沈水

交薪燒於竈其烟氣遠薰則異以獻之

沈水香之圖



大明一統志曰檀香出廣東雲南占城真臘凡哇渤泥暹邏三佛齊回回等國今嶺南諸地亦有之樹葉皆似荔枝皮青色而澤楞嚴經曰白旃檀塗身能除一切熱惱華嚴經曰摩羅耶山出旃檀香名曰牛頭塗身設入火坑火不能燒

靈宝録曰 御鏡之西 四天王紋錦旗 糞掃衣 伎樂殿 上代鈿箏 古代大楯
御禊 雷禁 銘曰開元二十三年歲在甲子五月五日於九龍縣造 其外よりあり

律學院 三空録曰太子十六歳御影 宗源寺 常念佛修行之寺
聖觀音 愛深明王

東院 日本紀曰推古天皇九年二月皇太子初宮室於班鳩に興
古より月録抄曰此地は班鳩といふ所の宮に於て教方集り常に下を看くを人
其所に宮を造り班鳩宮と名づく後にさし置る

夢殿 八角宝形堂之上光院より上宮王院より入る靈宝録曰本尊觀世音菩薩立
聖觀音者東西四面觀者西面太子像沈水香木より太子聖化乃觀
聖者あり毎月十二日拜殿あり

大君の御心をけしむるにふしむるを愛殿と云ふといふことあり
神順礼記曰推古二年に神堂入道殿道長よりせり
東院の南門のやうなり

舍利堂 南無佛舍利 秋尊の九眼之太子二歳の二月十八日に東方方角向ひ南
無佛と唱へ南の門の内に出現しあり舍利ありと有るは乃
尊號あり又佛法最初を説く見佛開法の舍利と云ふは折は仏舍利
の太子のお生を記すに勝曼夫人と云ふは世尊の流法に垢衣を心
にさすこと迷ふを覺るにさすといふありとん涅槃のけり此後世尊
の九眼の舍利を傳ふにあり 杖乘略記に曰く入り神順礼記曰舍利堂を護持堂と

いふ毎日午の上刻に縁に七尊ありて舍利堂ありて錦箏七をひひりて
玉塔の舍利をさすに城に万徳満の形ありて利益無量生の光あざなり
ゆへにけり有るは舍利の月の朔に黒点一を現し日々に増して十五を満と十六日
より日々に減し此日小一と云ふことあり

南之佛の舍利がさる七の鏡むりしと云ふを今の双調 紫式部
法隆寺の舍利の神とてこの歌かかると

さだりありて 露の林けりみとてはとてをさるいひるがれ里 殷富門院

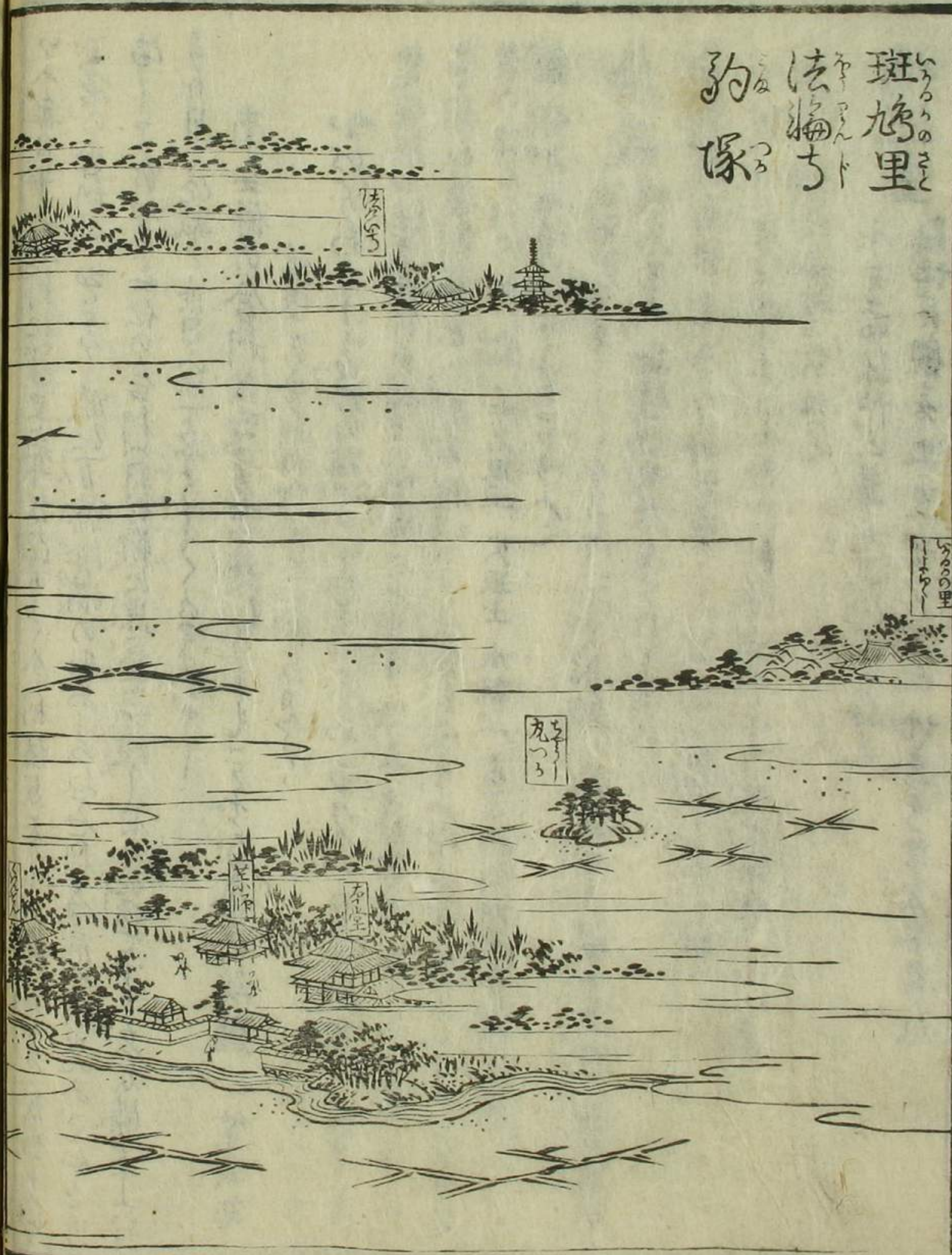
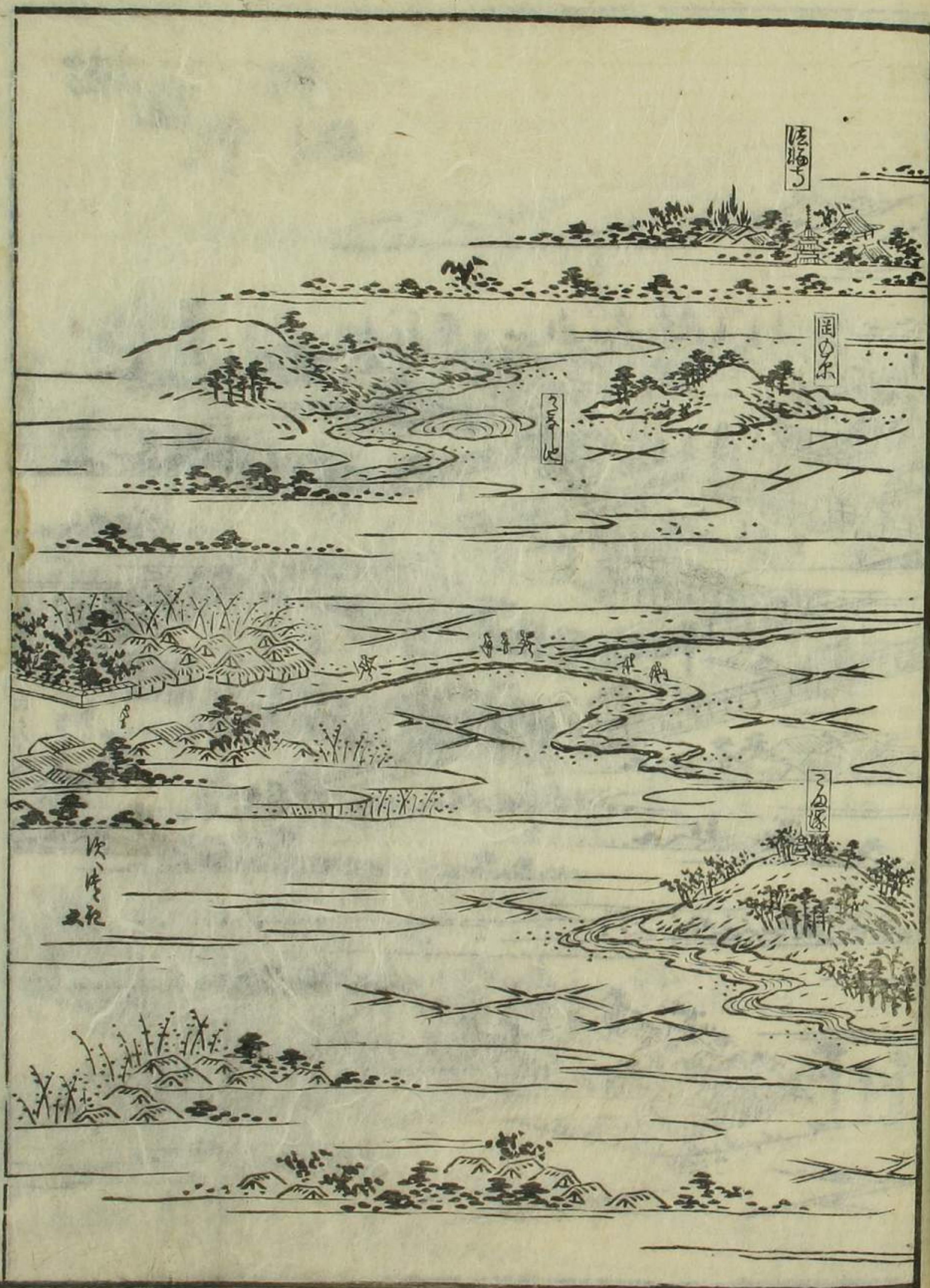
靈宝録曰法義經の首題用明帝の表 法義義疏四巻 太子の神直是
本朝に書割化の始に洞蕭推坂にけりは筆を吹かす神をさすり今の蘇莫
者の舞をけり 鎧 釵 石名取王 火取王 水取王 太子神初推の時の所持

繪殿 武殿院と号し太子神一代の神を祀りてあり又後に藤原
延久元年持津國秦致貝とて畫に

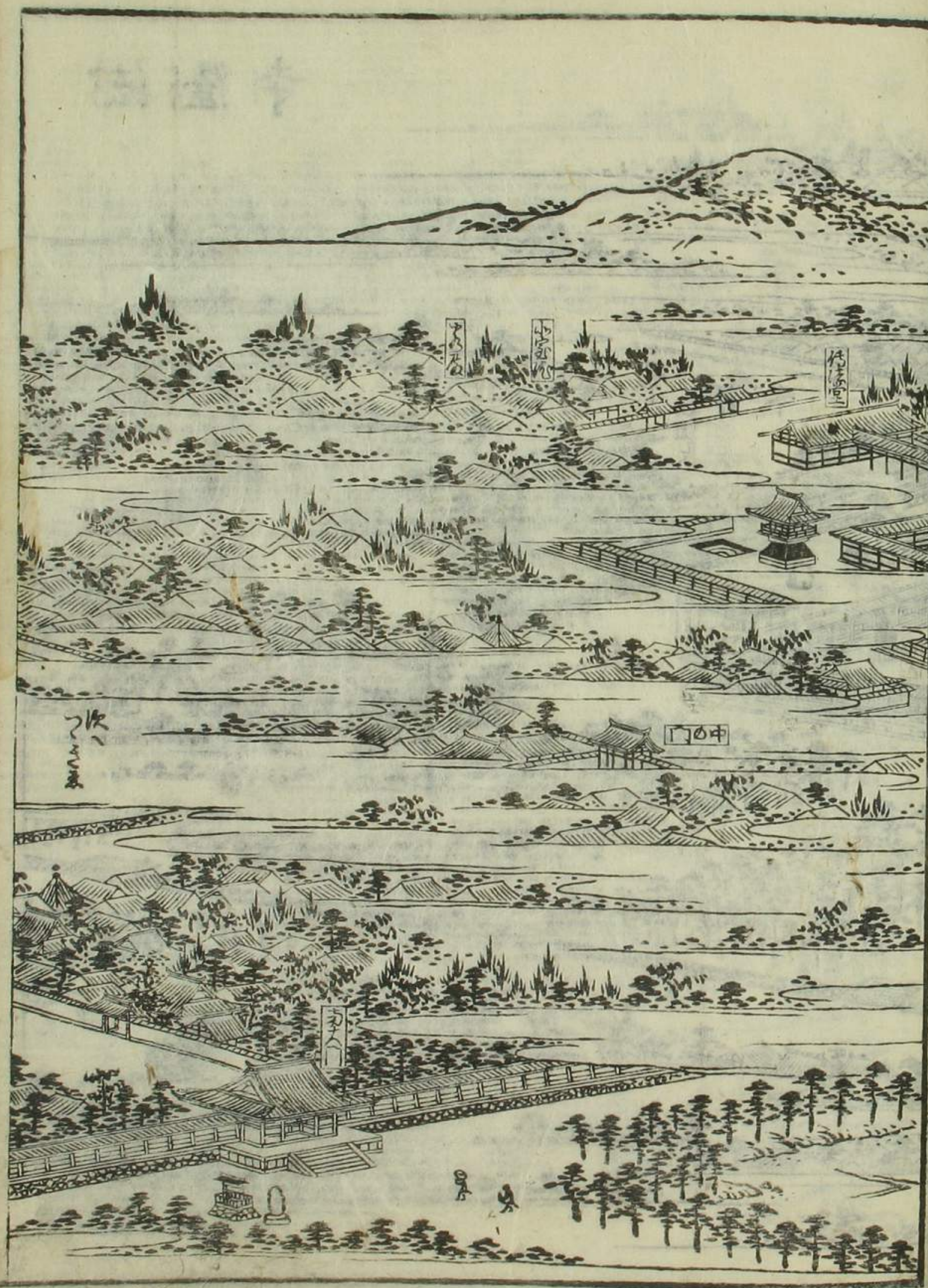
愛遠觀者 愛の心ありて神を祀りてありとて畫に

御相殿 靈宝録曰太子七歳神教聖武帝の神化百海國より
神海披の神と

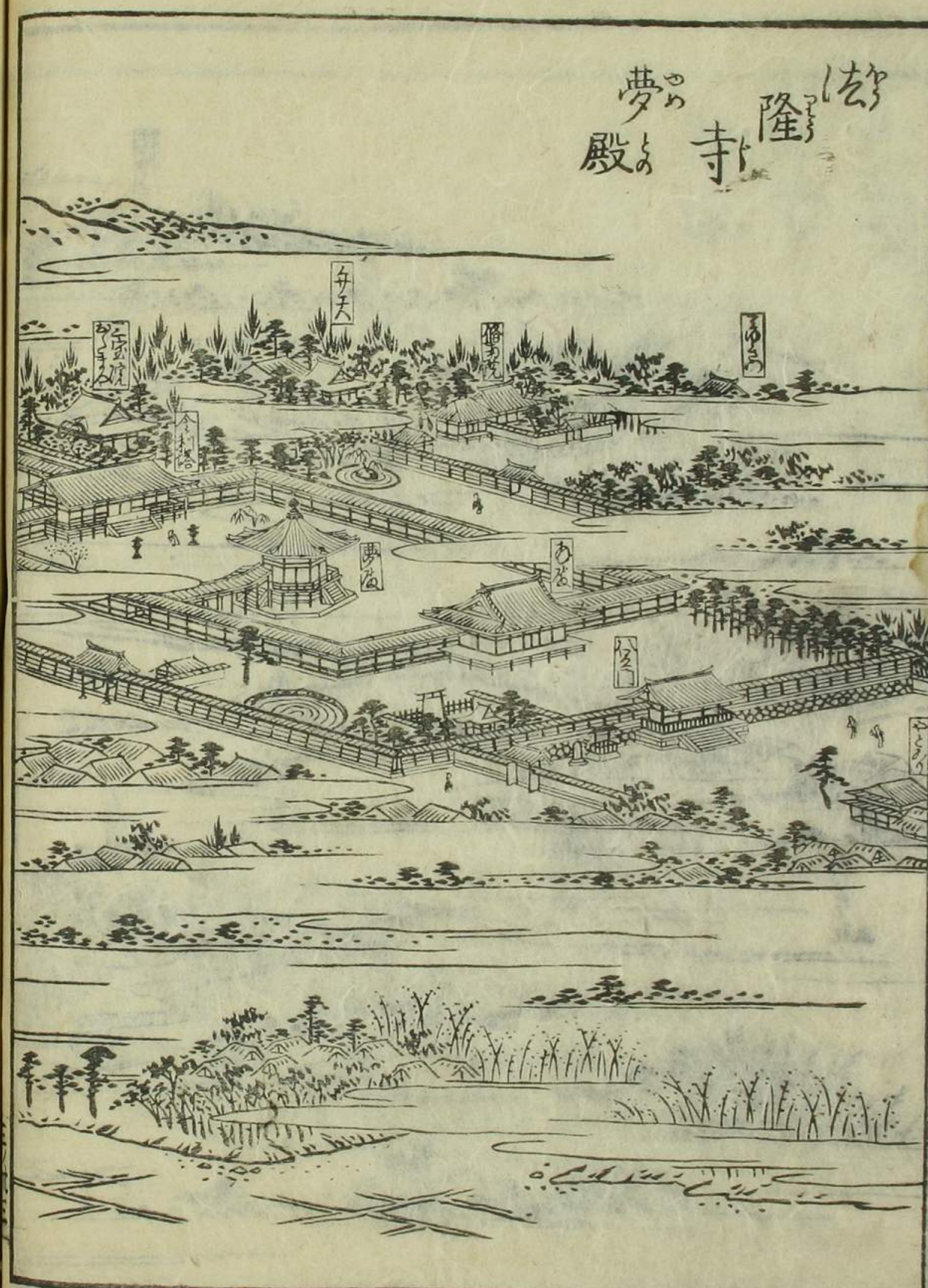
傳法堂 本寺の法華陀之尊九品淨土の神
脇壇に觀者母至千の十一面地尊より安坐あり

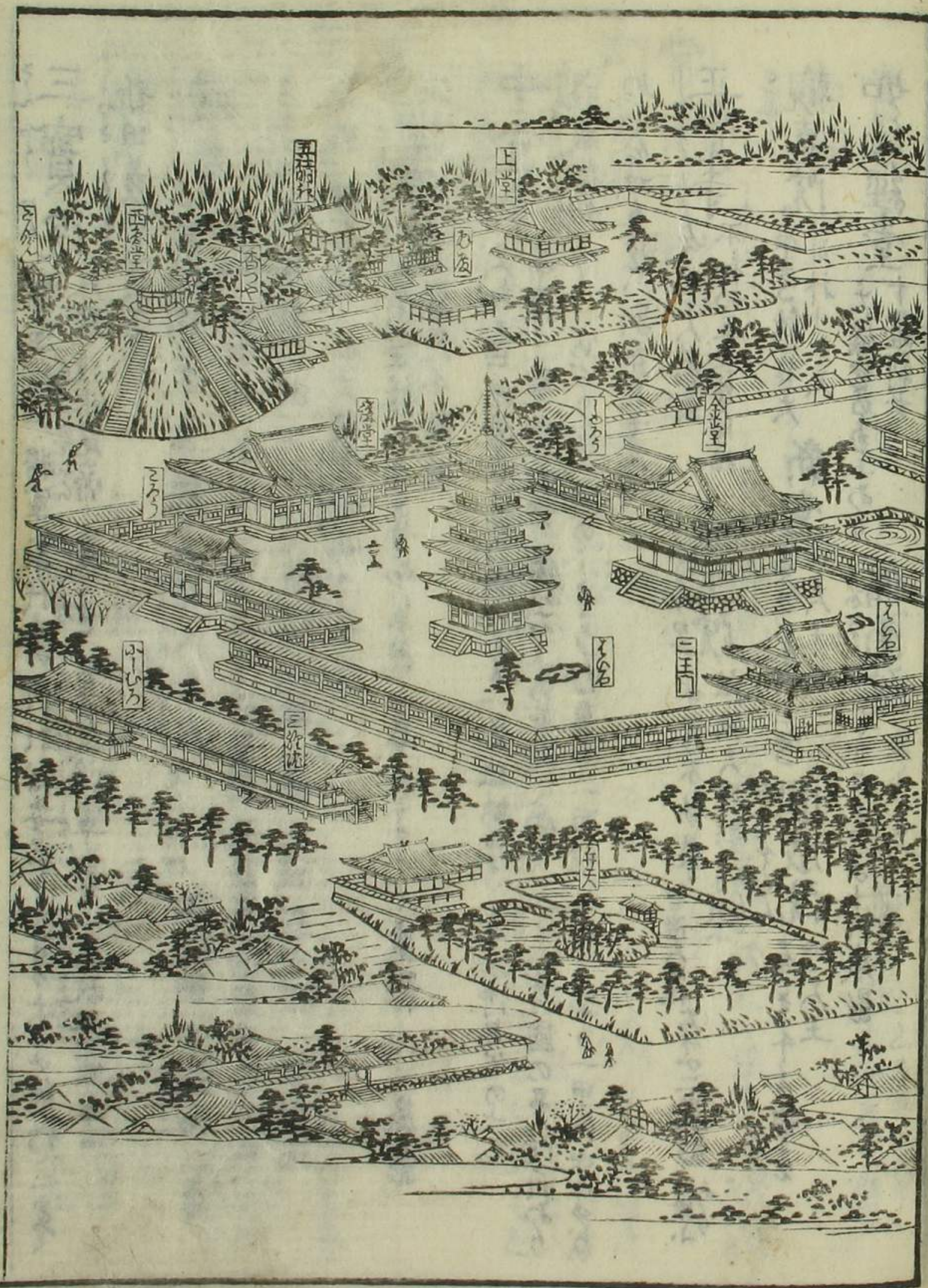


斑鳩里
法橋
三つ池

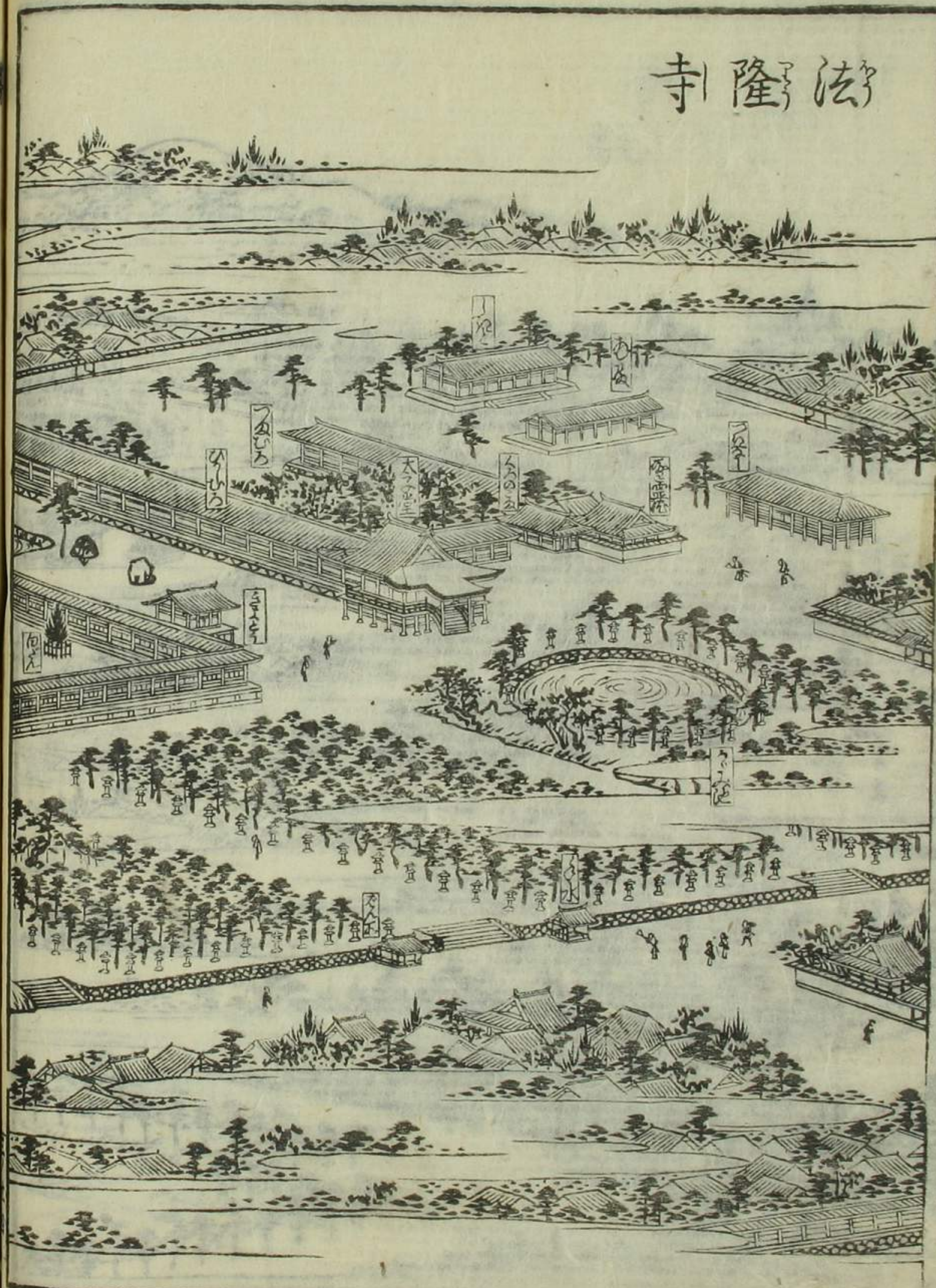


夢の寺隆
殿の寺





法隆寺



三寶院 靈宝録曰將軍家代々の所祀成安長一なりを子給侍とを
外願後水尾帝 尊氏將軍書 義政將軍書
新田義貞自序状

禮堂 靈宝録曰本尊觀者梵天帝釈鳥仁降化 誕生佛赤梅檀二尊
舍利如意海 舟大 杉香燕曹菩薩面 同將東 南無佛舍利雲

振鉾 變東多 右大將頼朝卿所寄附
北室律院 灵宝録曰本尊の法陀之尊を子十六歳影曰二歳影

中宮寺 大和老曰法隆寺良の隅にあり一名班鳩尾を子清母公の十七
本尊二臂如意海の像を子の聖化を當ちふ子大奇國の曼陀所あり

莊嚴微妙ありてゆかりに大珠のこころを龜甲一百はかりつゝあり一甲ににやみん

ゆかりに別記に書に

正覺寺 本尊大目如來 智澄大師化 右子二歳影 西殿小
不初の王弘法大師化

觀喜院 本尊欽喜大 新堂 本尊茶所之尊 圓成院 本尊千子の觀者
荒神十二人 四天王

如法經堂 大満宮の南小あり 脩南院 本尊を子十六歳影
十羅刹女 各々六人

常樂寺 本尊五智如來 金光寺 本尊千子の觀者 藏王堂 本尊藏王権現
大般若毎年修りあり

御廟 左子の所廟にはうてくあり
花院入道 九六

常樂寺 法隆寺村巽古市場小一宇のゆれかゝるのこころあり云々
聖徳太子に十二箇所所建之の其一ツ云

芦壙宮 古今目録抄曰聖徳太子崩れり所之俗に神屋といへり今も崩れ
の地とて芦壙の宮れり出たりと法隆寺より六町あり巽乃方

神屋村にあり又聖廟神臺の大安ち乃孫記に飽波宮とて崩れり人

神修新あり

菅田池 菅田村小あり
千載

額安寺 額田郡村小あり本尊十一面觀音推古帝所造上宮を子二昧定なる
皇位權護のこころとて後疑村に一の持念を建せしむ玉林抄

曰推古帝所額に悔しん瘡を人々をせしむは茶所像を所造之の所預に

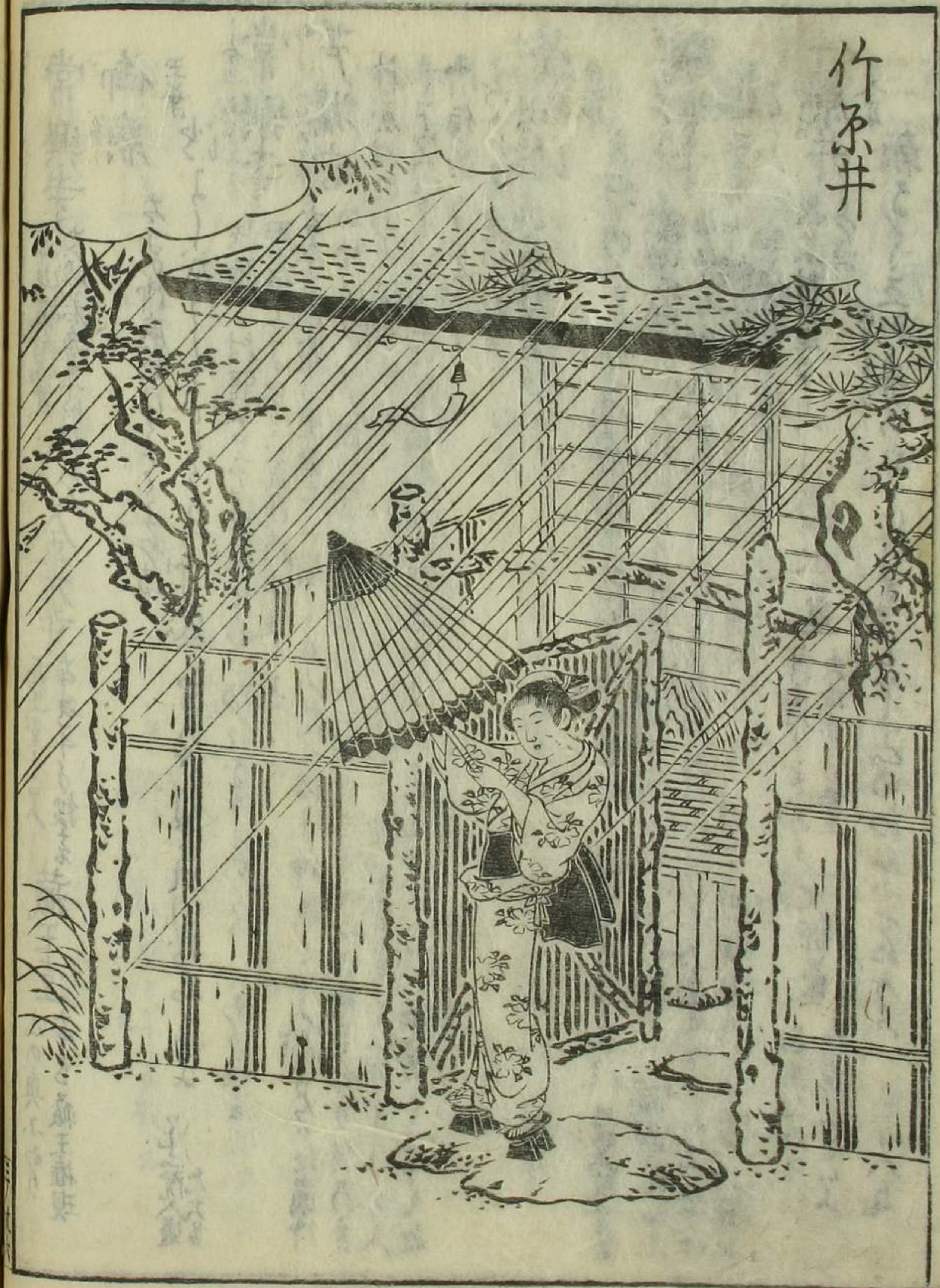
竹原井 推本村の迎うあり 清水墓 本田村の南小あり 苑部墓 西里にあり
夫本

朝ふくまの骨のそりたるもさうさうのにおふそめらん 人丸



お枕
 せうらうの石井の
 あやあゆみ
 新田此乃
 六月五日
 光俊

竹系井



光俊

龍田新宮 法隆寺より六七町神あり 新龍田比古龍田比女神社二座 延喜式

新龍田と推古帝十四年二月十五日上宮を法隆寺に建し

あんの勝地なるのく巡りあり平群の川より西坂乃東をあり

よせと多ひに龍田明神老翁に化しゆりくく伽藍の勝地

と一へられ我又守護神と云ふ人の神也ありた子け神告ふ

法隆寺に建ぬ龍田明神とむり崇神天皇の清宮に龍田山乃

崇小法隆寺より龍田の系礼の具は施の元傍二十人法隆寺より

なりとありそれより永く法隆寺よりつとわらむなりと立所

社を一一く定にしりける又法隆寺に班鳩の傍に勧誘

鎮守と云

龜瀨 法隆寺の南に候 越後縣越前郡聖徳太子の

般名瀨社 林南の東車田村

之田川立る君名とありみいりせの杜れいとと終思ふ

え方

彩古

彩勅撰

神あいの岩瀨の杜れ時をありの岡にりりさかかん

夕暮を友より外なりあいの杜りりけを凍りた

神さひのいと瀨のとりれ初しれ志のひ久を林風を吹

そのつらひても社に知れふよ岩瀨のとりれ秋の下流

毛無岡 洞安村あり立田大橋より四町をり 秋の川にさやるるあり

北新 田舎離とあり

古のころの世の時をこつとやうにいふつげさや

我せさなるの世れは子も若くは世のあつた

つらつらるの世れ郭公古の人ふくはほくさ

とく 登月寺枕日神甫備篇

ぬく風ふとあひやとん神さひのうそのは家のねを

三田屋 登月寺枕神甫備 垣津田池 或曰法隆寺の鎮守大は宮の前の池

里人の大はの池といふ

立田新宮



侯千載

立田川氷の上に

のひてかり

神代もさうな

まのまの

はるの

立田川

立田川の上
にひてかり





龍田
本宮

新宮
白木の
立田の
八重橋
いつしか
おのり
道念法師

山吹
つた



信濃山



名懸嶺峠

塘雨

麻の野

越了

新田

夜あじや



神備
三室岩
お茶川
般瀬杜

後拾巻

あ〜〜吹

こ空のこ此

お茶川

立田の川

瀬

徳園

山

山

山

山

龍田川



古今
ふら振神代也

龍田川

ゆきくればわよ

あきくればわよ

世業平



神南備 根柢おと大和を許すい山神南の三室の山不混乱

古今 神皇正統記の巻之十一の御事大和の事

日 ちりちり神皇正統記の御事大和の事

金系 ちりちり神皇正統記の御事大和の事

詞花 ちりちり神皇正統記の御事大和の事

淡小竹原 澄月斎神皇正統記

夫木 ちりちり神皇正統記の御事大和の事

神岳神社 神皇正統記の御事大和の事

信貴山 觀音院朝護國孫子寺と南山明蓮上人の當初聖徳太子宮軍

はし ちりちり神皇正統記の御事大和の事

と 破とて信貴山に進入り太子御誓願丹を以てり

と 中に石櫓ありてはちりちり神皇正統記の御事大和の事

貴みとて白膠本ありて四大王の像を拜み御誓願に収りて

文に進みて新小姓約山の藤原とて老武者二騎忽ち味方

に侍りてはちりちり神皇正統記の御事大和の事

一人の御多大臣とて一人の坂本大臣とていひてはちりちり

軍功とて人々を御事大和の事

ゆかかくは扱ひの多門大の石櫓の上方一丈の殿舎を建給ひて

信貴山の昆山大足より其時皇太子は山に向て侍りて信貴

へ一貴むとて宮いより信貴山とていひてはちりちり

米尾 大和守社記曰昆山門堂より十五六町かと其處に信貴の畑ありてはちりちり

古城址 大和守社記曰山の頂に古城の跡ありてはちりちり

自殿 大和守社記曰山の頂に古城の跡ありてはちりちり

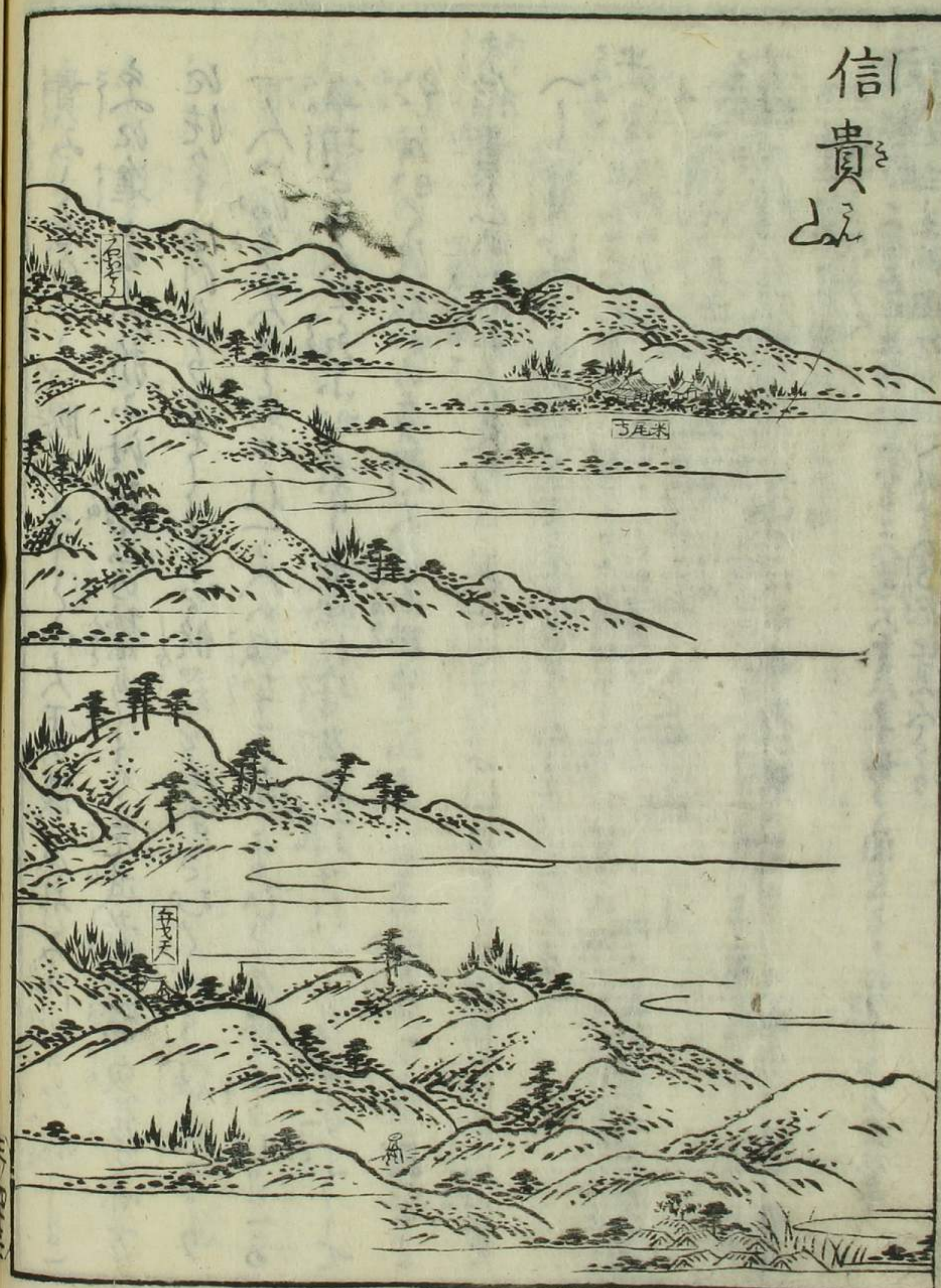
岡屋址 大和守社記曰山の頂に古城の跡ありてはちりちり

大和守社記曰山の頂に古城の跡ありてはちりちり

大和守社記曰山の頂に古城の跡ありてはちりちり

大和守社記曰山の頂に古城の跡ありてはちりちり

大和守社記曰山の頂に古城の跡ありてはちりちり

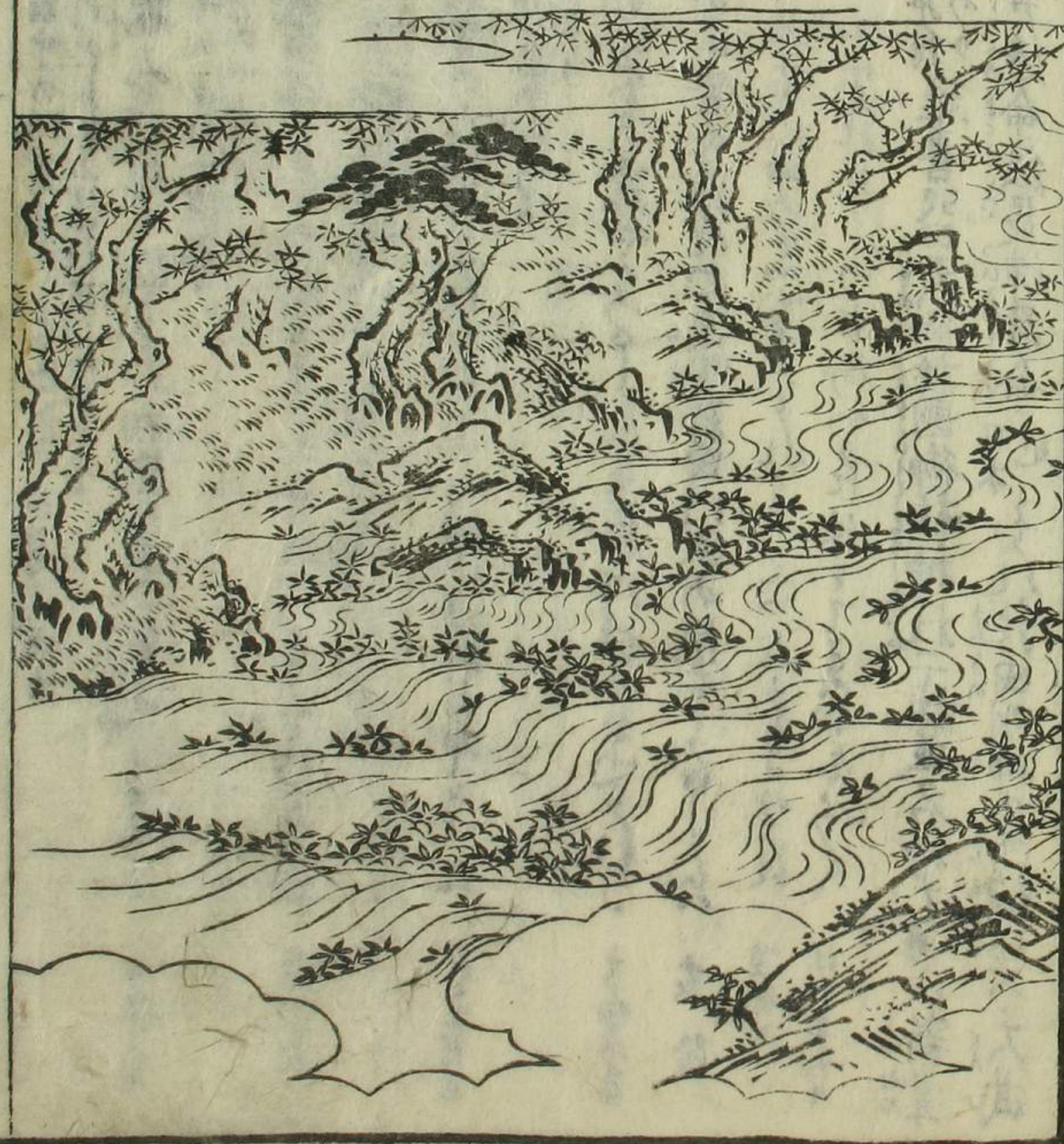


信貴山

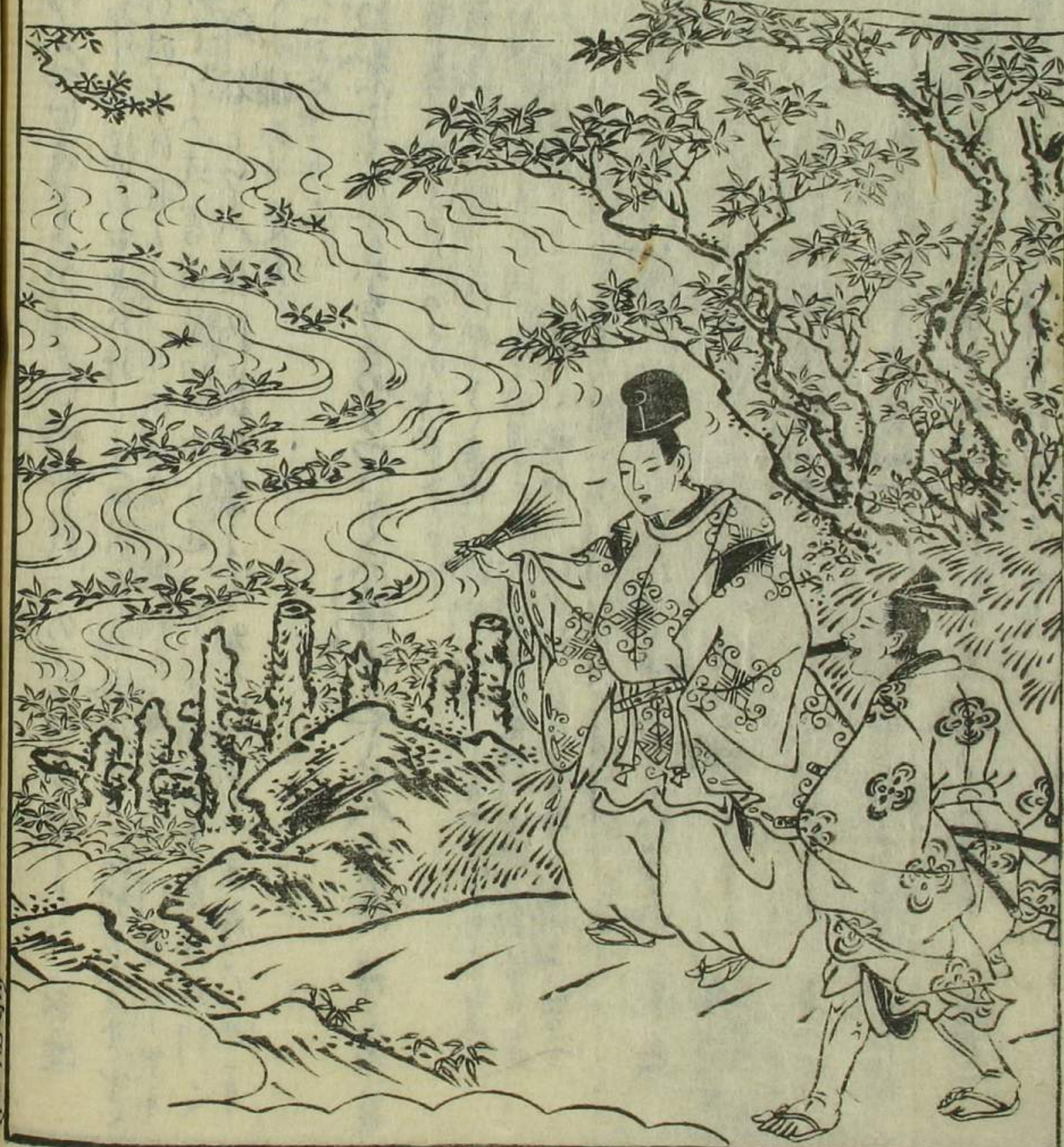
石尾木

石尾木

冬の川
 大根系
 流石
 新田川
 字鹿



秋の川
 新田川
 流石
 大根系
 冬
 鹿



大和川 大和國中の川 藤原朝 延喜式 南葛下郡の

大和川 北の川と云ふ所は 末の河内に入

大和川 橋みどれく流るる 初瀬のふもと

お糸川 立野の西に小瀬あり

杖風の龍田よりふぐれさくお糸の川にさばり波

二室山 神前村あり 龍田大島と號し又島と云ふ

立田川二室の山にさくを糸川岐深ぬ日ぞるん

二室岸 神前山の側あり

神さひの二室の峯やつらん立田の川にさく

神さひの二室の峯にわが御田川糸の川をさく

新後撰 立田川 二室北きりの古柳にたはれ

龍田神社 立田村 延喜式曰天御柱國御柱神社二座並名神大月次新嘗

系新級長戸邊命級長津彦命 日本 紀 立田明神の御鎮座の大武

大皇元年四月 小糸天皇 崇王 小錦下 佐伯連 彦長 かつら

立我小風神 小祠あり 又大山中 芳林 韓大 寺々 廣瀬の川曲 大忌神

と糸川 一め 芳林 神と 伊勢 諾伊 特冊 尊大 八洲の國 生れ

と後伊勢 諾尊 我新 生國 唯朝 芳の あり くらり みる ぶと 宮い

て 則吹 撥の 氣化 神と 芳足 風神 あり 日本 紀 又 飢 時 あり

倉稻 意命 秋日 本紀

才一社 東 級長 戸邊 命 纂疏曰 級長 戸邊 命 長 倉 稲 意 命

才二社 東 級長 津彦 命 纂疏曰 津彦 命 長 倉 稲 意 命

瀧系 神 神 祇 本源 曰 瀧 系 神 廣 瀬 竜 田 神 同 躰 異 名 水 氣 神

伊勢 系 神 祇 記 瀧 系 神 之 別 稱 曰 吹 撥 命 一 曰 土 佛

少 神 社 也 伊 勢 系 神 之 別 稱 曰 吹 撥 命 一 曰 土 佛

少 神 社 也 伊 勢 系 神 之 別 稱 曰 吹 撥 命 一 曰 土 佛

二 神 之 勅 宣 豐 葦 原 千 五 百 秋 瑞 穂 之 地 あり

二 神 之 勅 宣 豐 葦 原 千 五 百 秋 瑞 穂 之 地 あり

とて一とて昂大の瓊矛を授けり二神は瓊矛をさしけり
 のうふとすすみく矛かこつとてささぐとほひしつをば
 のそありれ其矛のさより滴とあふ瀬りりり一のつとろろこは
 破馭盧志と之中大日本國の靈とるりと三神は清に居る
 國の中柱をさへ八咫の殿と化能くさふ後ろの中又勝系
 龍神は其神瓊矛を領く地中におさるりと一説は大和の
 龍田神とけ備系と神にゆきたけ神の領のさふより大柱國柱
 と之清名ありと之中龍田も靈とをたふると龍神は大柱國柱
 とつるも源秘のさ海育とさうや正統記曰く靈と
 金峯葛城峯のさ
 神降る貞觀九年正月廿七日廣瀨神龜田神正一位を授けり註
 額正一位立田大明神と小孫道風の事
 糸大武帝天武四年四月朔龜田風神廣瀨大忌神をさしめてさ
 紀日本又大忌神風神の糸並て四月廿七日七月廿日と新日本
 本紀今と

九月十二日

立野 りまふ大和國
又武彥國

ひやふまの所の産るささるも人のさるん

百濟宮 百濟の村あり人皇
世五代舒明天皇の皇宮 百濟大寺 上宮太子の建立之入る
あり本寺毘盧に大安

列女亮三比 弘法大師やせほひしと
列女亮の比田系

押の方ふして秦樂ちあり大宇の比廣瀨那百濟大寺あり

亮の比廣瀨那田中村あり安ありとて教括等と聖述あり

櫻嶺 の坊村の
廣瀨行宮大寺村中 長樂寺 長樂寺村あり
秋清して味取

大福寺 著尾莊多々村あり真言宗とて
別自他の茶師如來とて弘法大師は
の辨賊とて勸誘

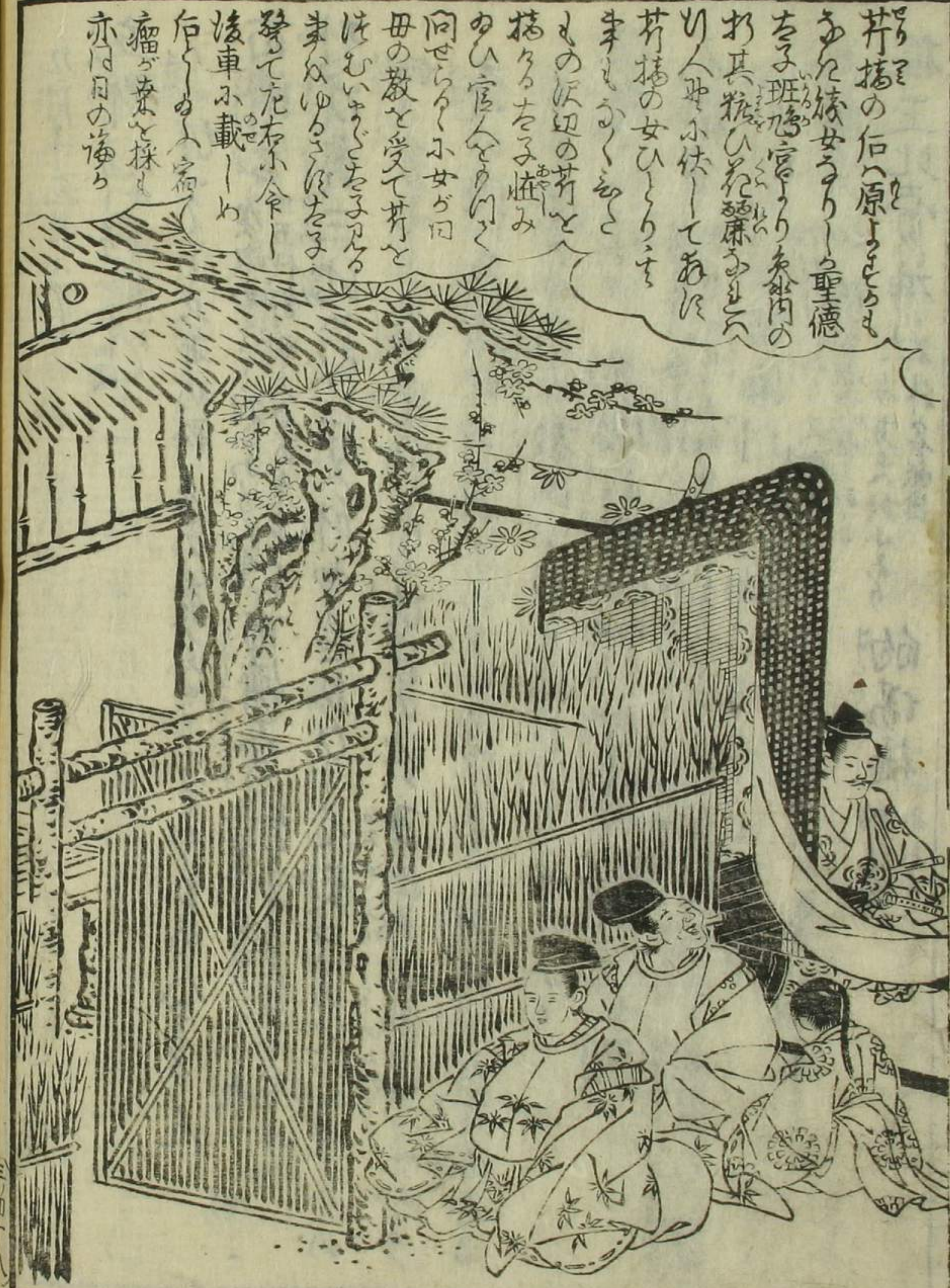
長林寺 穴園村あり又那彦寺とて
今觀音堂一あり 的場橋 的場村
あり

櫛王比賣神社 每大村あり
休多出 的場橋 的場村
あり

的場橋 的場村
あり



芥搦の右へ原へとて
 あな様女より一聖徳
 ちよ班鳩宮より夫内
 のお其様ひたは藤原の
 り人申小供しておは
 芥搦の女ひとり
 まもふく
 もの坂辺の芥と
 搦たるを子遊み
 のい官人より
 向せらる小女が
 母の教を受けて芥と
 はむいさるを子
 まふゆるを子
 登つてた右小令
 後車不載一
 后のいふ
 瘤が京と採
 亦は日の海り



廣瀬川 大和吉野初瀬川百濟川葛城川多見川の四水合流して廣瀬川と

新千載 入月雨小行ささりく廣瀬川を流るるをその名の白波 於河佐所

新千載 入月雨小行ささりく廣瀬川を流るるをその名の白波 於河佐所

澤田川 は川を小沢田村といふあり

澤田川 は川を小沢田村といふあり

廣瀬社 の合村 あり新和加字加賣命 延喜 又の御名大忌神 日本

伊弉諾伊弉册尊の神子豊宇賀乃賣

神とこれ則神祇官の御食神とくさしはと神鎮社天武天皇

元年四月小竜田廣瀬兩社の祠あり 日本 紀 糸の日本紀ふは月朔日

とくさしはと神鎮社天武天皇

苗稼うはひ民ふれひかえ 合義 解

牧野墓 廣瀬村の西二十町よりあり 成相墓 牧野墓十町よりあり 東あり 押坂老人

立岡墓 牧野と成相との向ふ町あり 立岡墓の墓是の足めし 延喜

葦田原 葦田池 日見橋 船戸渡 いつとと葦下郡 王寺村あり

片岡神社 王寺村あり 今五社の社あり 久度神社 王寺村あり

久土寺 一名安土と号し聖徳太子の 建立久土里あり 久土里 在系業平の別荘あり

考靈天皇陵 王寺村あり 陵考 白の形の高サ八間也廻廿五間

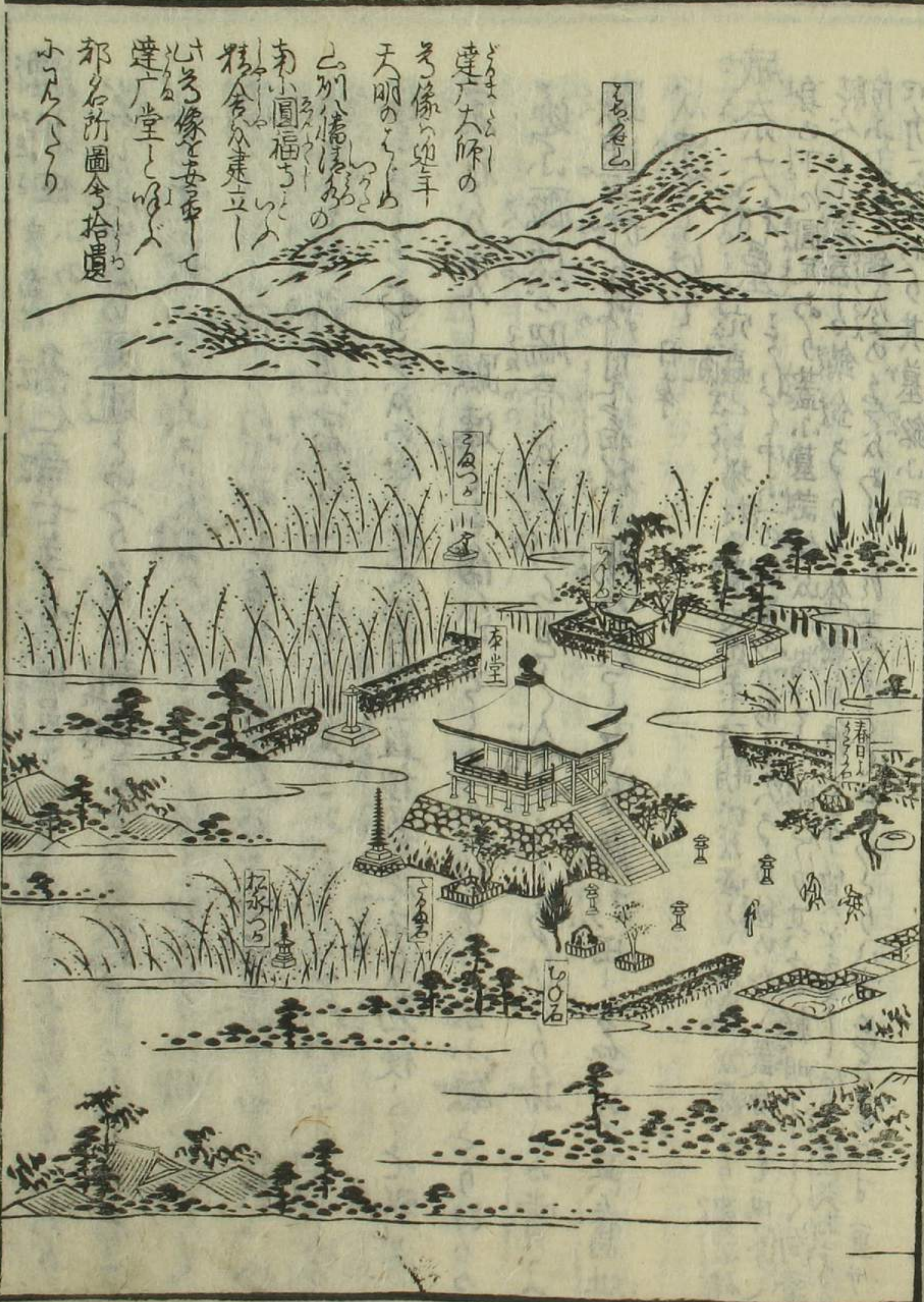
片岡の達磨寺 王寺村あり 推古天皇二十一年十二月聖徳太子片岡のをこ

くく 亂人道のゆきく小ぬきかかんぬひく姓名とせせのひくく

くく 亂人道のゆきく小ぬきかかんぬひく姓名とせせのひくく

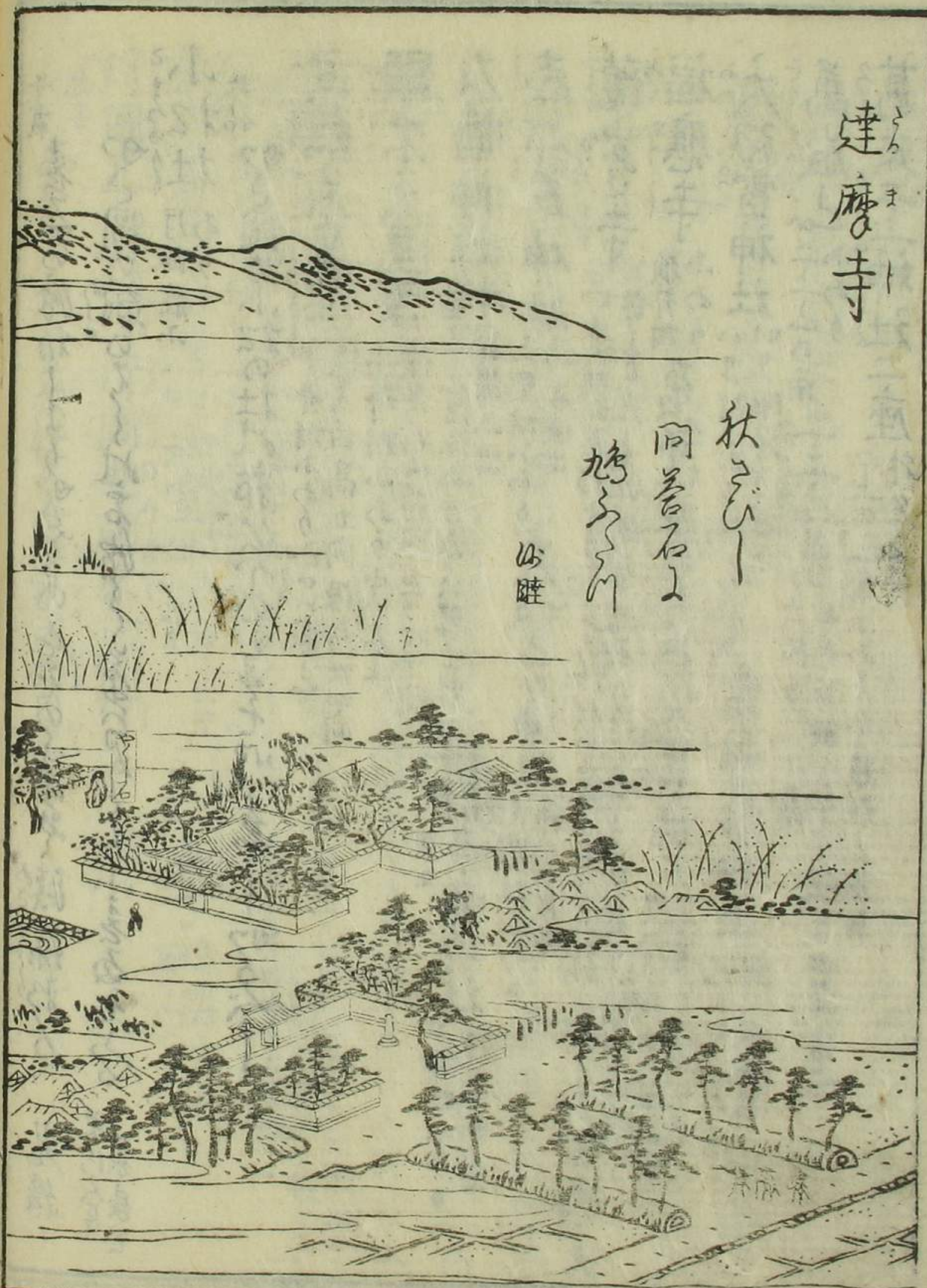
くく 亂人道のゆきく小ぬきかかんぬひく姓名とせせのひくく

くく 亂人道のゆきく小ぬきかかんぬひく姓名とせせのひくく



達磨大師の
 坐像の如年
 天明のころ
 乙卯の春
 南園福
 精舎を建立
 け坐像を安置
 達磨堂と号す
 都名所圖拾遺
 小入り

達磨寺



秋さび
 同善石
 鳩ふり
 山睦

腰折田良福村 密仁帝七年當麻邑いしかのことさしとる人あり
 名ふの當麻の蹶速くろくとつり角つが刺鉤さふとふのふふいとさきあり
 世の中いおれふるふらんかいつとあらんやとふふありい知ちふやと
 若わくはしと大皇おほうのふあをきふんかんありや近長進ちんをさくはる
 國くに所ところ見み宿禰すくねといふありとさそをたてられゆいと奉ほうけ
 宿すくふささそをさめせとそその日ひ倭直祖長尾やましろをふ勅使しつしとて野見
 宿すくふささそ一蹶速くろくとさゆいとさめきひとさふ蹶くろくよりける
 遂すいふ蹶速くろくが脇骨わきほねが蹶くろくらとさふ命いのちとさうひたり傍かたら賞しょうふ
 蹶速くろくが地ちが所ところ見み宿禰すくね賜たまわれとさふ腰折田こしやせと名なつけて其その舊址ふるところ
 遺いりける日本
 威奈大村墓いなきおほむらのかぶ 穴あな蟲むしと馬場うまば村むらの農夫のうと也なり年とし不詳ふじやう地ちが破やぶれ大おほ甕づつ破やぶれ
 身みの下したに圓まる足あしあり蓋かきふ墓誌むし銘めいふ小指こさしとさふ其その字な鮮あま明あきらとさふ向むか讀よみ
 所ところふふ銅どう器きと銷しょう金かねとさふ千餘ちよ載のりふ所ところ竹たけ質しつとさふ一ひとは系けい録ろくとさふ
 尺は寸すんのふあり其その墓誌むし銘めい小曰こいふ

小納言正五位下威奈卿墓誌銘并序 卿諱大村檢前五百野宮御宇

天皇之四世後叡本聖朝紫冠威奈鏡公之第三子也 卿温良在性恭儉
 為懷簡而廉隅柔而成立後清原聖朝初授務廣肆藤原聖朝小納言關於
 是高門貴曹各望備負 天皇特權卿除小納言授勤廣肆居無幾進位直
 廣肆以大寶元年律令初定更授從五位下仍兼侍從卿對楊宸宸參贊絲
 綸之密朝夕唯幄深凍獻替之規四年正月進爵從五位上慶雲二年命兼太
 政官左小辨越後北疆衝接暇虜茶懷鎮撫允屬其人同歲十一月十六日命卿
 除越後城司四年二月進爵正五位下御臨之以德澤扇之以仁風化洽刑清令行
 禁心亟真享茲景祐錫以長齡豈謂一朝遽成千古以慶雲四年歲在丁未四月
 廿四日寢疾終於越城時年卅六粵以其年冬十一月乙未朔廿一日卯歸葬於大
 倭國葛木下郡山君里栢井山豈天潢疏汎若木分枝標英碁碁載德形儀惟卿
 降誕餘慶在斯吐納參贊啓陳規位由道進榮以禮隨製錦蕃維令望攸屬鳴茲
 露寃安民靜俗愷服來獲達荒介足輔仁無驗連城折玉空泉門長悲風燭
 二上山おほのやま 銀ぎん峯かみ村むら北きたあり内うち園のり小こ跨またり二ふた家いえあり男おとこ嶽たけ女むすめ嶽たけといふ北きたふ小こ峯かみあり
 銀ぎん峯かみといふ小こ瀑たけ布ふあり高一たか丈たけ餘あまふ
 二上山おほのやまの月つきのさゆふ 家いへお
 後のち拾ひろむ 郭かくにおりすといふるれとく二ふたとこの夜よ半はん乃なり一ひと聲こゑ 後のち人ひとふ知し

當麻寺 二上嶽の下九子 二上二乃法藏院禪林寺と號と本堂と

觀世音より曼陀羅堂とて勅額あり是も新曼陀羅あり又

本堂の後の寶藏之中將雅直の曼陀羅と収めたりそれ當寺と

用明帝才口の皇子磨古親王に神建立し其初を推古帝に神宇

二十年河内國山田郷小造立あつて方法藏院と號と今の當麻の地

へひり役行者の家地と大武帝白鳳二年磨古親王の所爰の若小依

て今の地に移し然も大武帝役行者の地とてのなゆらるる行者と

勅もく伽藍とてありて十年二月堂舎とてく成就はこも小

於く禪林と改てけ其後大平寶字年中右大臣豐成公の女中將雅

けちふ入く尼と成一念小佛道に致とて其の鉢陀佛とてははとんを

寺とておまるとて誓ひし一人の比丘尼あり若く曰我汝ら

小鉢陀如來にあまうらん百駄の蓮莖と集むて中將尼帝(奏)一

婦人と詔とて蓮莖と運ぶて其時化尼とての莖はた系は

ぞり井の穿らるればか溜ぐ小入久際然と深まり又ひりりり化女

有り化尼小同系の深まりも若く曰不成とて化女系は深く殿

の西北の角とてくくく織初更より初く口更不成然其幅一丈

八尺葉三把とて油二升と浸し燭とてくくく中將尼よ授

く降土の變相悉く傳へ中將尼大はほひ節とて竹と求く軸と

ふはけ小化女忽然とて入る化尼とて四句の偈と授く曰往昔

迦葉說法所 今來法起作佛事 響響西方故我來 一入是場永離苦

中將尼問て曰若知識はくより有りありを又その女の推とてりり

善く宣へ我とてその方の教とてその女の觀者大とて言おりりり

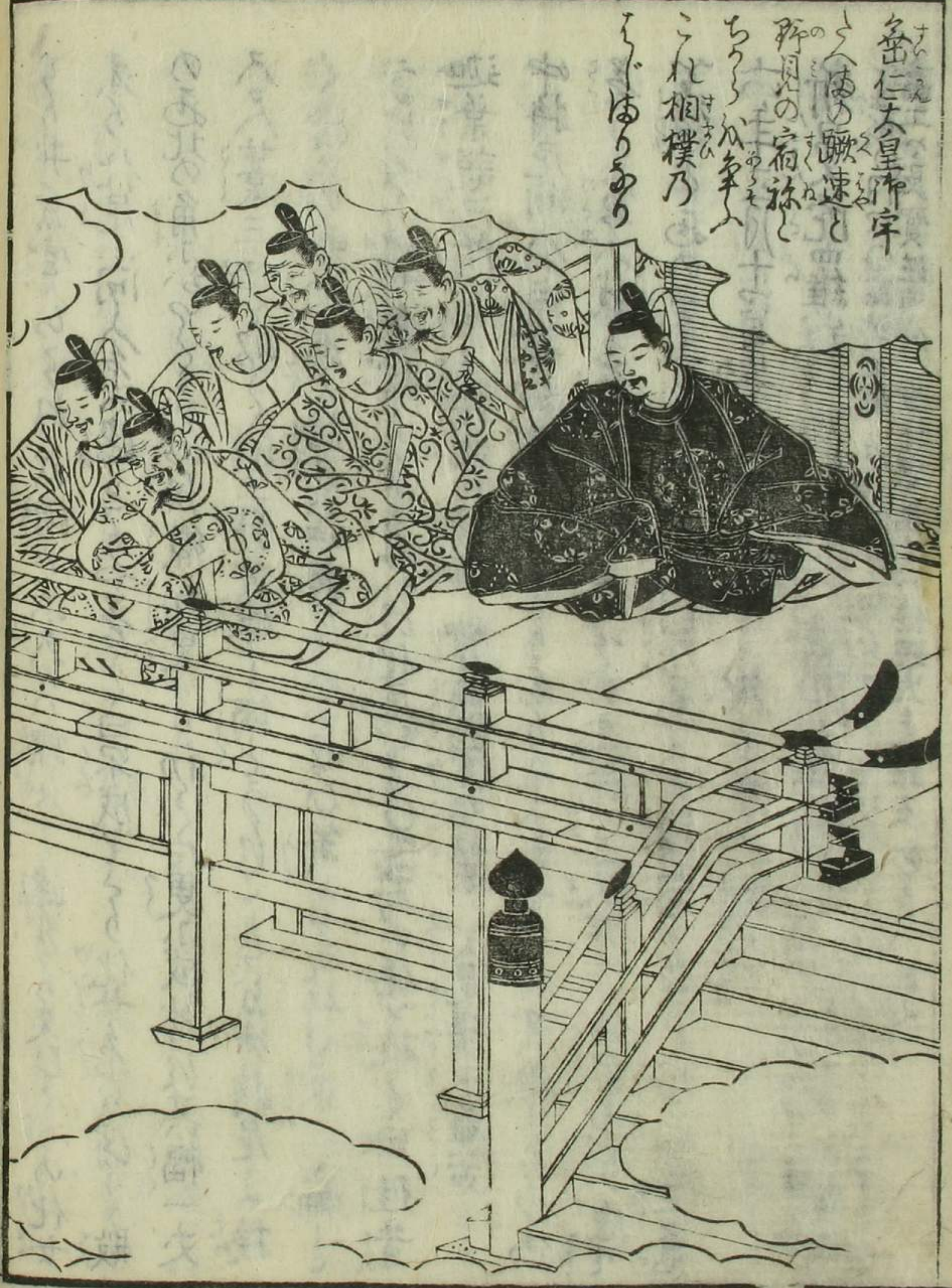
と後く西の方とて去る中將尼是より精修するはくくくく宝龜

六年二月十日日安念佛とて終りあり 年廿九女

新曼陀羅 大平寶字七年より四百八十と終り土御内院の所宇兼元二

年小院奉るは神護國德院の所宇保延二年十月小新

畫工の良賀法下源慶法眼銘とて修理太夫藤系長行終り



岳仁大皇御宇
 とははの敏速と
 所見の宿禰と
 ちりりんま
 これ相撲乃
 ろとほりあり

講堂

本寺の西の隅に如来の坐像あり
又側小茶所堂あり

法華堂

本寺の釈迦如来の坐像あり

右大將頼朝公徳谷小次希直家とす
坊舎 眞言宗十六坊

系云庵

和州社記曰中將娘の當麻氏の實
惟法師の所居なり

小堂あり尼寺なり
或書曰中將娘を極く敬まひて

弘法大師は此の寺を法に授け給ひしなり
或書曰中將娘を極く敬まひて

尼の寺

二上の玄塔をふりて尊反るる人なり
一の塔は

或書曰中將娘を極く敬まひて
弘法大師は此の寺を法に授け給ひしなり
或書曰中將娘を極く敬まひて
弘法大師は此の寺を法に授け給ひしなり
或書曰中將娘を極く敬まひて
弘法大師は此の寺を法に授け給ひしなり

奥院

と性生寺とて人深堂上人の遺像上人みづく
因眼甲八段満多

一像ありて洛東智恵院にて年曆を述べけり
或夜の爰に我額小打と

おもはる吾悩念のびくく
と豊成法師を誠小竹打を

々の足元ぬけて血の流るる只肉身の如し
又爰の若あり我本師を當

麻子の曼陀羅にかゝる移し
と今かゝの曼陀羅堂の乾を八

徳比小して子世の青蓮華ありと
と一をばほひく爰さあさり

庇傍わやみ當麻ふ巡りしてあり
と蓮華ふしおとも入り

假小角じく諸神勅清の祈は清浄の地さる
く一とをまてをせうぐらぬは

石光寺

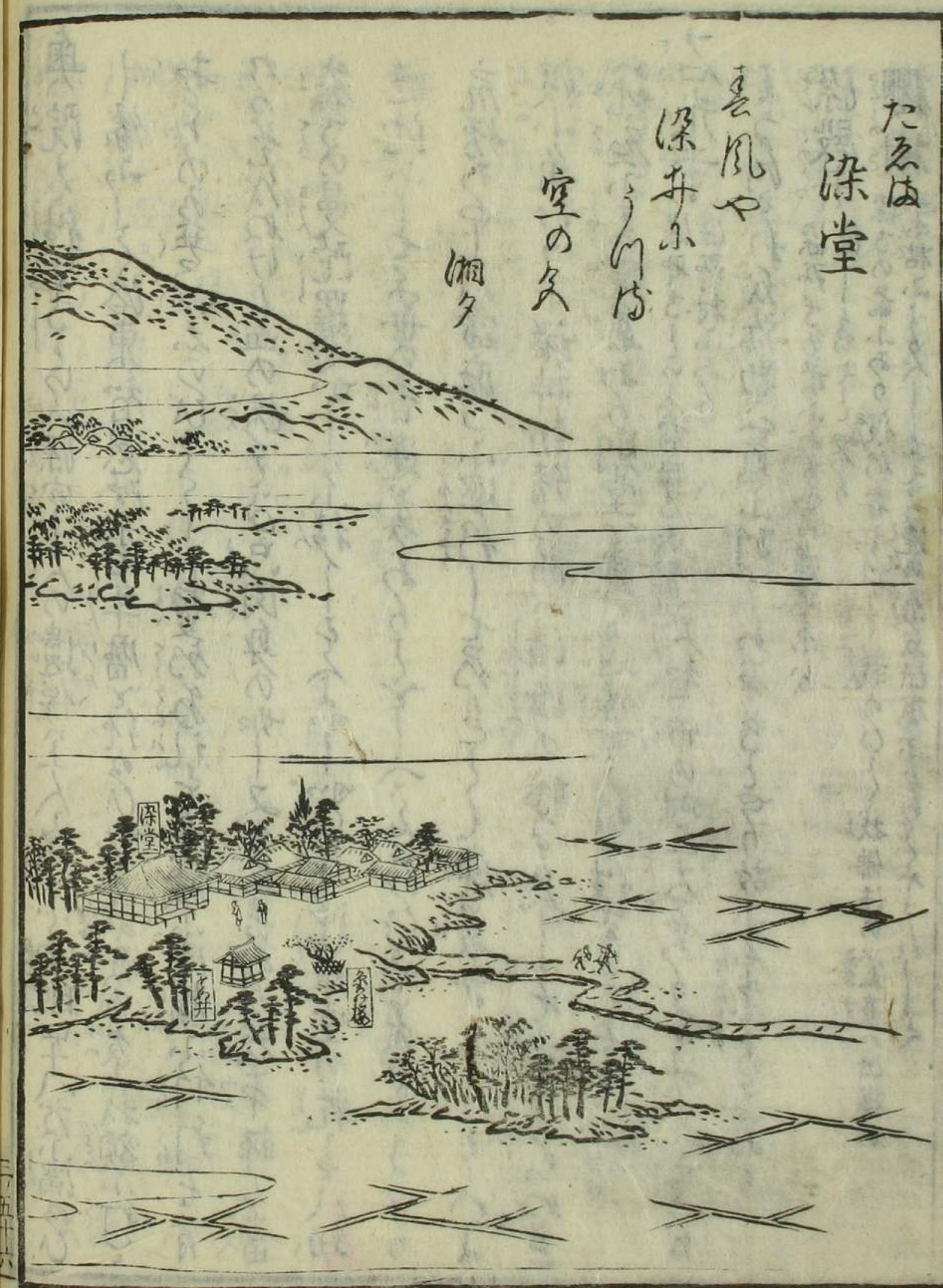
深井村あり
大智帝の時に大石ありて夜々光る

深殿井

深井村あり
深井村あり

櫻樹

深井村あり
深井村あり



高雄寺

新在家村小あり 王と曰く

横佩墓

横佩墓 豊成公の墓なり 豊成公は武蔵守

正行寺

有井村小あり 蓮如上人の真影あり 實如上人の横小曰明應二年九月

多久虫王神社

二倉堂村小あり 龍王と稱と 浮孔宮 二倉堂村小あり

調田神社

足田村小あり 春日と稱と 長尾神社 長尾村小あり 神名帳

金村神社

大倉村小あり 神名帳 宇佐神社 大倉村小あり

影現寺

本多阿弥陀佛 梯本洞本堂の傍小あり

歌冢

文別林直民の塚と云ふ 和列村本村人麻呂小石碑陰

高山雲深不可攀 不可陟 桃源路迷不可遊 不可到 然非天地之外 是以 皓叟悠然 以隱黃髮 怡然自樂 彼人而遺世也 此世而遺彼人 故車馬跡 絕為別天地者也 偶有如張子房 陶元亮者 而得向高山 得沂桃源也 舉世皆不知之 豈子房 元亮 獨知之哉 出塵之操 與潔之情 同氣相求 同聲相應也 則高山之雲 桃源之路 豈必背人 哉 人背之也 大和國漆 郡初瀬石上之邊 柳本寺有柳本大夫人麻呂之墳 世移時替 基趾湮

滅曾聞 藤清輔 尋其旧蹟 刻小碑 詠歌而去 其後 鳴長明 尋之 不得 矣 問歌墳在何處 而始知之人 麻呂者 歌林之仙 獨步絕倫者也 清輔 長明者 千歲之同士也 試心求 豈不至乎 哉 猶子房 元亮 於高山 桃源也 和列郡 山城 主曰 列太守 源君 信之一日 語余曰 其領內 葛下郡 柳本村 有人 麻呂 之墳 土人 傳稱 人麻呂 生干 茲故 後人 建墓也 蓋其 自歌墳 所移 葬乎 今已 荒廢 僅存 旧礎 是以 修其 寺院 建小石 欲垂 不朽也 請記 其事 太守 初鎮 播別 明石 城 浦 畔 以 右人 麻呂 祠堂 建碑 請詞 於我 先人 弘文 學士 詳記 履歷 今又 修其 墳墓 可謂 能知 人麻呂 者也 自然 之好 因不 亦奇 半響 雖有 清輔 長明 然不 遇太守 起廢 之舉 則誰 向其 跡 尋其 風 哉 明石 不遠 朝霧 梅影 人麻呂 之霄 息干 此遊 干彼 長濟 千歲 之羨 也亦 是太守 追遠 之一端 半其 於事 業則 民德 歸厚 者 可以 期焉 乃誌 干碑 陰為 後證

天和元年辛酉十月中旬

整宇林懸直民甫識

笛吹山

忍海郡の西界小あり 巨樹鬱蒼 一風雨の時小

栗栖小坪

柳系村小あり 城もも同々あり

葛城川

北十三村小あり 葛下郡小あり 笛吹祠 笛吹村小あり

為志神社

林堂村小あり 十二所権現と稱と 火雷神社 笛吹村小あり

大和名所圖會卷之三終

角刺宮^{つうし}回止^{のりど}

忍海村あり

人皇廿二代清寧大皇五十年崩し終ひく白王太子

億計王^{いじ}清光^{せいこう}

弘計王あり

清光の御孫あり清光の御孫あり清光の御孫あり清光の御孫あり

あはれ目^{あはれめ}公孫^{こうそん}

清光の御孫あり

あはれ目公孫の御孫ありあはれ目公孫の御孫ありあはれ目公孫の御孫あり

清寧帝^{せいねい}二年七月

角刺宮あり

清寧帝二年七月角刺宮ありと與まるとやけりしが人皇の御孫あり

一とひ女の道^{いちとひのむち}の道^{のち}

あり

一とひ女の道の道あり女の道の道あり女の道の道あり

遊岡^{あそぎの岡}

あり

遊岡のあり遊岡のあり遊岡のあり遊岡のあり

吹笛^{ふえ}の社^{のやしろ}

あり

吹笛の社の神あり吹笛の社の神あり吹笛の社の神あり

朱櫻^{あけぼの}

あり

朱櫻のあり朱櫻のあり朱櫻のあり朱櫻のあり

吹笛の社の神あり吹笛の社の神あり吹笛の社の神あり吹笛の社の神あり

大野北町野拾四巻 伊勢屋 岡 新共衛

樂天堂

佐藤了庵

終

樂筆行錄

卷一